

TOTO

2017年 秋号

Toward a Creative
Architectural
Scene

通信

特集

まちを起こす戦略としての建築

Special Feature
Strategy
for
Town
Revitalization

TOTO 通信

Toward a Creative
Architectural Scene
Number 516
Autumn 2017



インタビュー

予算ゼロからの、まちづくり人生 木下 斉 4

ケーススタディ1

ジョンソントウンがよみがえった 「ジョンソントウン」
設計/渡辺 治 10

ケーススタディ2

町家の奥まで、人を引き込む 「クラシキクラフトワークビレッジ」
設計/橋村 徹 20

ケーススタディ3

日光も風雨も感じるアーケード 「とおり町 Street Garden」
設計/前田圭介 28

ケーススタディ4

商店街に学生シェアハウス 「シェアフラット馬場川」
設計/石田敏明 34

特別記事

安藤忠雄、本を語る。 40

シリーズ

旅のバスルーム102 TWILIGHT EXPRESS 瑞風(西日本)
文・スケッチ/浦 一也 44

現代住宅併走38 「三岸アトリエ」
文/藤森照信 設計/山脇 巖 46

最新水まわり物語44 JRゲートタワー 52

新商品開発物語 システムドレッサー「エスクア」 58

TOTO創立100周年特集 第4回「建築と未来」 62

News File TOTO News,
Cera Trading News, Books 66

「TOTO通信」をインターネットで
ご覧いただけます。

→ www.toto.co.jp/tsushin/

表紙写真/「とおり町 Street Garden」の俯瞰。表紙撮影/川辺明伸
編集制作/伏見編集室(62~65ページを除く)
デザイン/岡本一宣デザイン事務所(62~65ページを除く) 印刷/ゼネラルアサヒ

特集／ まちを起こす 戦略としての 建築

Special Feature Strategy for Town Revitalization

私のまちが、
ずっと魅力的な場所であってほしい。
たくさんの人が訪れ、住む人も増えるとよい。
その想いをもって、「まちづくり」は始まる。
まず、人の力は欠かせない。
そして、まちを起こすには戦略が必要だ。
まちを知り、分析し、計画を立案する。
大切な要素は、まちのデザイン、
建築がつくり出す場の力。
考え抜かれた建築の力は、まちおこしの
一端を担うものでありつづけるだろう。
方法はさまざま。
ひとつの小さな建築の試みが、
まち全体に波及したり、
あるいは、建築が群となって、
まちの価値を上げたり。
時には、建築の役割自体を再考する
必要もあるかもしれない。
あらためて、その戦略を探ってみた。

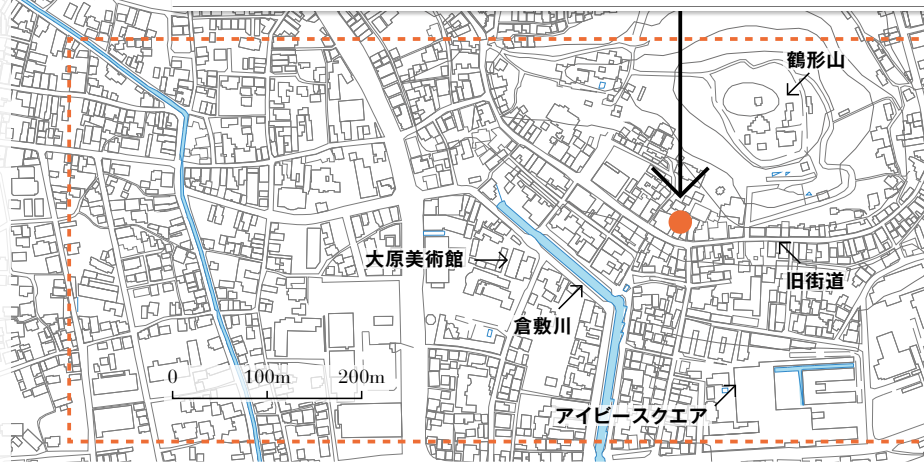
Case Study 1

ジョンソンタウン



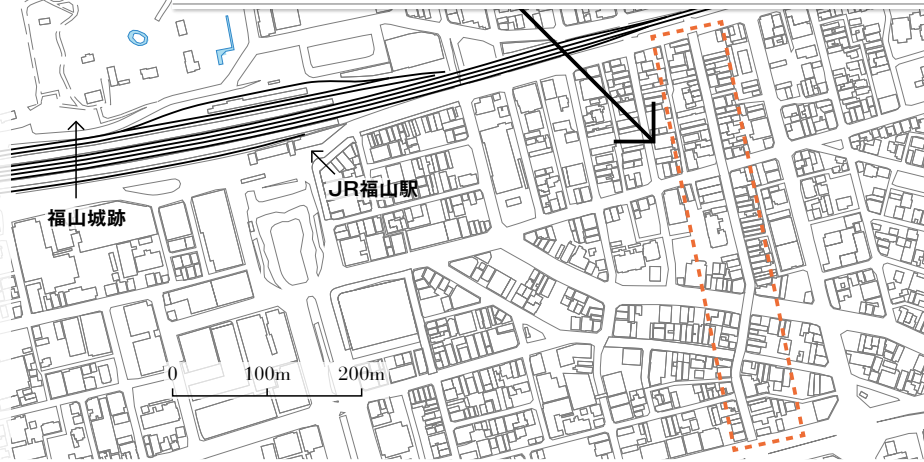
Case Study 2

クラシキクラフトワークビレッジ



Case Study 3

とおり町 Street Garden



Case Study 4

シェアフラット馬場川



予算ゼロからの、まちづくり人生

インタビュー



木下 斉

エリア・イノベーション・
アライアンス
代表理事

Special Feature
Strategy
for
Town
Revitalization

まちづくりのために、今、建築家に何ができるのか。

建築デザインには収まらない、持続性や経済性を兼ね備えた

建築への思考が、まちを活性化することがある。

北海道から沖縄まで全国約40カ所の、

まちづくりにかかわってきた事業家の木下斉さん。

高校生のときから地域での活動を始めた木下さんは、

現在35歳の若さにしてまちづくりのプロフェッショナルである。

一貫している戦略は、「まちを経営する」という視点。

予算がなくとも 企画で稼ぐ

——木下さんは、まちづくりを企業のよ
うな「経営」という視点でとらえて、地
域再生に取り組んでいます。そうした視
点は、これまでの20年近い経験から得ら
れたものだと思いますが、なんと高校生
の頃から地域の活性化に携わっていますね。

木下 斉 高校1年生のときに、早稲田商店会の活動に参加したのが、きつ
かけです。そこでは、まだ自治体が資源ゴミ回収をほとんどやっていない
頃に、環境を切り口とした商店街の活性化を行いました。空き店舗を
借りて、商店街のクーポン発券機能付きの空き缶・ペットボトル回収機や
ゴミ処理機を自主的に設置したりしていったんです。これからは環境の時代
という風潮もありましたが、民間事業として環境をテコにした商店街活性
化に取り組んでいたのは早稲田だけだったんですね。

——自治体ではなく、商店街が自ら活性化に取り組んだのですね。

木下 地域活性化というと、国や自治体からの助成金で活動するところも
多いのですが、早稲田ではクーポン発券機能を生かして各店舗に送客する
代わりに、加盟店が販促費を支払う民間事業として取り組んでいました。
大きな商店街になるとアーケードや街路灯などの設置やメンテナンスをし、
年間予算数千万、数億円というところもありますが、早稲田商店会は貧乏
だったので、年間予算が60万円ほどしかありませんでした。一定の予算を
使って何かをやる、という議論はまず成立しない。そのため、何をやるに
しても、どうやったらお金が入ってきて、そのお金でどうやって企画を支
えるかということを一つひとつ実践するのが基本でした。

——具体的には、どのように資金を得たのでしょうか。

木下 たとえば、年に一度エコサマーフェスティバルというイベントを開
催していました。当時、全国各地の環境系ベンチャーは新製品をつくった
ものの、導入実績がないために営業に苦心していました。そのため、早稲
田のまちを使って機械の導入実績をつくれるという触れ込みで、ブース出
店料を支払ってもらったわけです。

イベントのスローガンは「まちなかのゴミを持ってきてください」です。
「ゴミは持ち帰ろう」というのが普通のイベントですが、その対極をいった
わけです。

当日は住民の方々が多く集まり、マスコミも殺到、商店街の各店舗は出
店を出して儲けました。企画で稼ぎ、店も稼ぎ、出店者も稼げる。そのキ

ーワードが「環境」ということだったのです。こういう環境と経済を両立
する、民間自立の取り組みだからこそ、新宿区、東京都、通産省（当時）、
国連大学、早稲田大学などが協力していました。
予算はゼロでも企画で稼ぎ、まわりの人たちがみんな、得をする。楽し
いことと得することが大切だと学びました。

全国40ほどの 商店街と つながる

——その後、まだ高校生のときに、木下
さんは地域活性化を担う会社の社長にな
っています。

木下 早稲田商店会には職員はいません。
僕が若くてパソコンが使えるということ
で、事務局の手伝いをしていました。イ
ベントや視察を通じて知り合い、そのなかでも際立ったリーダーシップを
もっている商店街や自治体、政府、民間企業関係者が参加しているメーリ
ングリストの管理、全国の視察者のデータベースの作成などをしていまし
た。1999年6月、そのメンバーが「実際にみんなで集まりたい」とい
う話が出まして、オフ会を開催することに。さすがにオフ会では体裁が整
わないということで「全国リサイクル商店街サミット」という大層な名前
をつけて開催しました。

そのときに、高齢化や空き店舗などの全国の商店街が抱えている問題は
共通しているので、みんなで会社をつくって取り組もうという話になった
わけです。ただ、口は達者だけど、本業があるとか忙しいとあって、実務
をやる人がいない。さらに、新しいことは新しい奴がやったほうがいいと
いうことで私に社長をやらないかという話に発展し、高校3年の時に会社
を設立し、社長をやることになりました(笑)。

——どういう会社だったのでしょうか。

木下 株式会社商店街ネットワークという名前で、全国の商店街や個人が、
合計1245万円を出資して設立された共同出資会社です。北は小樽、南
は熊本まで、全国40ほどの商店街の方々がメンバーでした。

事業を通じて商店街に新たな利益をつくり出し、その一部を受け取るの
がこの会社の基本理念でした。しかし実際に事業に着手すると、まもなく
現実の壁にぶつかりました。そもそも衰退している商店街は内部にも多数
の問題を抱えていて、その解決なくして都合よく「儲かるうまい話」なん
て存在しないわけです。

——問題を抱えたところからのスタートになるということですね。

まちのゴミ処理回収を
ひとつにすることで、
年間450万円を削減。
まちへ投資しまし



Interview Kinoshita Hitoshi

木下 はい。最初は、北海道の商店街の商品を四国で販売するなど、商店街のネットワークを利用して地域を超えて商材のやりとりができたが、地元にはない珍しいものが店頭に並ぶので売れるのではないかと、などと考えていました。実際にやってみると、まったく売れない。

なぜかというところ、衰退している店舗はそもそも営業力不足だったのです。ただ商店街の方々は「商品が悪いから」とか「景気が悪いから」とかそういう話ばかりをしていましたが、実際にはそもそも顧客を設定して営業するという単純なことがまったくできなかったのです。客もいなくて営業もできないければ、どんな珍しいものを置いても売れないのは、この時代には当たり前だったのです。

何事も事業として実践してわかることがあります。商店街サミットに集まった関係者の意見だけでは、問題解決は無理だったわけです。このときに、みんなに意見を聞いて事業を考えるのではなく、自分でまずは考え、組む相手も選ばなくてはダメだと痛感しました。

商店街の壁で 広告収入

——では、会社の事業はうまくいかなかったのでしょうか。

木下 そうですね。それで会社をつくってから3年目には、事業をすべて刷新しました。僕らと付き合いのある商店街では、各店舗が儲かっているかどうかは別にして、それなりに人通りのあるところが、まだたくさんあったのです。その人通りのある土地とのネットワークをもつていくことが、僕らのアドバンテージだと考え、広告代理店と組んで、企業広告や新商品販促などを商店街にもつてくることを思いつきました。「ストリート広告」と名付けましたが、その後全国に広がって、今も取り組まれています。

——元手も少なくてすみませぬ。

木下 商店街の壁面などに映画や携帯電話の広告を受け入れれば、それぞれの商店街で年間数百万〜一千万円くらいの収入は見込めました。それは商店街にとって外から得られる新しい利益で、われわれも堂々と手数料をとることができます。同時に、それらの収入を生かして、まちの清掃の改善やテナントの誘致など、今後の成長に向けた投資資金にもなるわけです。

札幌市、仙台市、新宿区などで実施したところ、成功して、会社は単年度黒字になりました。

——会社は軌道にのったのですか。

木下 規制緩和を経産省や国交省とも推進し、各地での動きも見えはじめました。ただ、肝心の会社の株主であった商店街が賛否両論だったのです。自分の店の売り上げが立たないとか、企業広告が嫌だとか、当初の事業と違うとか、どうにか道筋ができた成長事業の緒だけだに、若さがゆえに私は頭にきて大げんかをして、社長を辞すことにしました。

——新しいことをしようとする、抵抗もあるものですね。

木下 今までの商売の仕方を変えたがらない人は多かったです。ただ僕としては、地域の活性化のために、空間をおもしろく使う、ということを意識するきっかけになりました。たとえば映画のプレミアアムイイベントを商店街路上で開催した際には、空間的な魅力を効果的に使え、各店舗の客数も増加したわけです。空間の活用と店舗の販促はばらばらではなく、確実に連動します。ここ数年は、名古屋の駅前再開発で工事用仮囲いに広告を出す事業に官民で取り組み、今は市が制度化しました。工事中は寂しい印象のまちに、おもしろさと稼ぎを生んでいます。

ゴミ処理の 一括化により 差額を

——空間の使い方と同じように、建築も地域活性化にかかわっていますよね。

木下 全国の商店街、繁華街をみると、昔からの商業者で有能な方の多くは不動産収入が主力となっています。いい時代に儲け、余剰資金や与信力を生かしてマンションやビルの開発といった不動産投資をされているんですね。

株式会社商店街ネットワークを辞めた後も、そのときの縁などがきっかけで、ずっと地域の活性化に携わりつづけてきましたが、熊本市では不動産オーナーを中心にしたエリアマネジメントの会社（熊本城東マネジメント株式会社）を設立し、10年になります。その頃から、不動産を通して、まちの事業のあり方を考えるようになりました。

——不動産の集合がまちになる。

木下 はい。海外では個々のビルでできること以上に価値を上げるため、不動産オーナーが資金を出しあい、資産運用としてまちづくりに取り組めます。家賃や資産価値が上がり、直接的に得るのは彼らだから、合理的な行動です。

たとえば、熊本市中心部では各店舗・各ビルがばらばらだったごみ処理契約を一本化。初年度は年170万円、2年目からは年450万円削減でき、その削減分から各商店街の販促、路面清掃、空きビルのリノベーション

店舗リノベーションでは、入居者を先に集め、彼らが払える賃料を設定。それから総工費を決めます。



木下さんの まちづくり 年表

1982 → 2017



1982	東京都板橋区生まれ
1998	16歳 早稲田大学高等学院入学 ● 「早稲田商店会」の事務局の手伝いを開始。 場所／東京都新宿区早稲田
1999	17歳 高校2年生 ● 「全国リサイクル商店街サミット」開催。 場所／東京都新宿区早稲田 ①
2000	18歳 高校3年生 ● 「株式会社商店街ネットワーク」設立(社長)。 場所／東京都新宿区早稲田 ● 商店街ネットワークでの取り組みが評価され、「IT革命」で新語・流行語大賞を受賞。
2001	19歳 早稲田大学政治経済学部入学
2003	21歳 大学3年生 ● 東京財団の研究助成を受ける。 内容／アメリカを訪問。民間によるまちづくり事業を調査。 ● 「日本型まちづくりの終焉」(共著論文)で、フジタ未来経営賞学生奨励賞受賞。 ● 「ストリート広告」事業を開始。 場所／北海道札幌市、宮城県仙台市など
2004	22歳 大学4年生 ● 「株式会社商店街ネットワーク」の社長を辞任。
2005	23歳 一橋大学大学院商学研究科入学(経営学修士) ● 東京財団リサーチアソシエイト 内容／アメリカ・ヨーロッパへ渡航、まち経営の方法の視察調査と論文執筆。
2008	26歳 ● 「熊本城東マネジメント株式会社」を設立(代表取締役)。 ② 場所／熊本県熊本市 内容／ビル管理にかかわるゴミ処理事業の統合化。 年間450万円以上のコストを削減し、まちづくり財源を生み出す。負担のない財源づくりに取り組む。
2009	27歳 ● 「エリア・イノベーション・アライアンス(AIA)」を設立(代表理事)。 場所／東京都品川区大崎 ● 「札幌大通まちづくり株式会社」を設立、準備段階から参画。 場所／北海道札幌市 内容／エレベータの共同管理など。
2010	28歳 ● 内閣官房地域活性化伝道師に就任。 ● 「名古屋駅地区まちづくり協議会」シンポジウムに参加。 場所／愛知県名古屋駅前エリア 内容／まちづくり会社設立に向けた事業を考案。
2011	29歳 ● AIAとそのほか2社の合同で「エリア・イノベーターズ養成・ブートキャンプ」を開始。 内容／地域の事業計画を練る、集中合宿プログラムを発案・実践。 これまでに50地域以上が参加、20以上のまち会社設立につなげる。 ● 「株式会社machimori」の設立に取り組む。 場所／静岡県熱海市 ● 「株式会社北九州家守舎」と協力開始。 場所／福岡県北九州市小倉区魚町 内容／ブートキャンプ参加を機に、リノベーションスクール開催などで協力。 ● 「オガールプロジェクト」に参画。 場所／岩手県紫波町 内容／視察見学・広報事業などを担う。 ● 「株式会社タウンマネジメント石垣」に事業協力開始。 場所／沖縄県石垣市中心部 ● 「一般社団法人長崎サービスアンドディベロップメント」と協力開始。 場所／長崎県長崎市浜んまちエリア 内容／ブートキャンプ参加を機に事業協力。
2012	30歳 ● 「株式会社北九州家守舎」へ出資。 場所／福岡県北九州市小倉区魚町 内容／「メルカート三番街」再生事業、「リノベーションスクール」の開催などに協力。 ● 「エリア・イノベーション・レビュー」開始。 内容／まちづくりと経営を踏まえた有料ジャーナルを発行。 公共建築の失敗事例集「墓標シリーズ」が話題に。
2013	31歳 ● 「ブートキャンプ」開催の3社で「一般社団法人公民連携事業機構」を立ち上げ、理事を務める。 内容／「エリア・イノベーターズ養成・ブートキャンプ」の本格実施。
2014	32歳 ● 「株式会社湯のまち城崎」の設立にかかわる。 場所／兵庫県豊岡市城崎町 内容／城崎温泉の複数旅館のエレベータ管理共通化・効率化により、まちづくり財源を生み出す。 ● 「工事用仮囲いを活用した広告事業」を実施。 場所／愛知県名古屋市 内容／名古屋駅地区まちづくり協議会とともに立ち上げ、仮囲いへの広告を手がける。 ● 「TANEYA」再生事業。 場所／愛知県春日井市 内容／空き店舗をリノベーションして、シェア店舗に再生。
2015	33歳 ● 公民連携事業機構と東北芸術工科大学による「公民連携プロフェッショナルスクール」開校。 全国から180名以上が参加、初年度で30のプロジェクトを手がける。
2016	34歳 ● 「株式会社勝川エリア・アセット・マネジメント」を共同出資で設立。 場所／愛知県春日井市 内容／商業施設「ままま勝川」を手がけ、「TANEYA」事業と統合する。 ③
2017	35歳 ● 「大東公民連携まちづくり事業株式会社」の設立に協力。

ンなどに投資しています。

——まちづくりという点、自治体の政策もイメージしますが、個別の不動産をベースに考えられているんですね。

木下 もちろん、個別事業だけでなく政策の転換はあったほうがよいと思います。日本も昔は人口がどんどん増えていたので、増加を前提に、基本的にはいろいろなものを「増やす」ことを考えてきました。ただこれから人口が急激に減っていきますから、「減らす」ことを真剣に議論しなくてはいけません。ではどう減らしていくのか、という全体の政治的な指針がほぼ示されていません。日本は明治以降、人口増を背景に必要な知識を海外から導入しましたが、減少に対応する経済、財政のあり方は学んでこなかった背景があります。

全体政策の転換が期待できないのであれば、各地の小さなエリアで現実的なアイデアを出しつつづけるしかないと思います。公共資産に対する規制緩和など、国単位だと進めるのが難しいことでも、限られたスポットでは議論がしやすいことはたくさんあります。また個人資産を守るために、建築や商店街の魅力をどうするかという話は、関係者全員が理解しやすい課題設定だと思っています。

建築家にも 経営力が 必要

——そういった小さいエリアのマネジメントのなかで、建築の設計には何が求められるでしょうか。

木下 建築の専門誌で言うべきではないかもしれませんが、不動産オーナーにとっては、更地を貸して、何もつくらないでお金が入ってくるのが一番です。ただ、そんなことは非現実的なので、やはり上物をどうするかということになり、更地より大きく収益を生む建築に投資をしていく必要があります。つまり、建築や空間をつくるのも投資だという理解で、建設費とともにオーナーやまちの経営面での数字をみて、数字を踏まえた提案ができる建築家が必要だと思っています。

そのためには、企画から設計、施工、できれば運営に至るまでかかわることが必要なのではないかと思えます。仕様がはっきり決まっています、それを実現する流れでしたら分業もしやすいのだと思えますが、僕らがやっているエリアの再生では、オーナー5人が参加する予定だった企画で、突然ひとり参加しなくなったりして、スペックや仕様が変わったりしますから、手戻りが多いんです。その手戻りを管理できないと、現実との乖離が

出てくるし、銀行の融資や投資も得られず、頓挫します。

現実とミスマッチしないように、空間の変更と数字の変更を同時進行することが、縮小時代の小さなエリア再生には求められると思います。

——経営の発想が、建築家にも必要ということでしょうか。

木下 そこまでできる設計者はまだ多くないので、今後はそのニーズがどんどん高くなっていくと思います。

愛知県春日井市で、建築家や工務店も一緒に出資している会社のプロジェクトがあります。投資意欲の高い高齢者が多い商店街なのですが、各店舗の人にアンケートをしたところ、10年後には店をやっていないという回答が8割でした。そのため、まずは「TANNEYA」という既存店舗のリノベーションは1年半の投資回収でスタートし、さらに「ままま勝川」という新しい地域商業施設をつくる際には上物11年の投資回収に設定しました。投資回収が終わった頃には、店舗の入れ替えなども進み、周囲の土地をみて集約開発をあらためて考えようと話しました。これは、建築家や工務店と一緒に活動しているからできることです。

——建築家や工務店が出資するメリットは、どこにあるのでしょうか。

木下 新しい仕事を呼び込むための投資と、逆算開発などの縮小時代の開発方法の学習のふたつがあります。不動産オーナーたちとともに、一定のリスク領域に自分たちも入り、逆に開発後の成果にもとづいて配当が期待でき、使い方から開発を適正化するインセンティブがあります。知見を生かして新しい仕事を自らつくり出すこともできると思います。

——建築家の役割が、広がっていきますね。

木下 仕事の中身を戦略的にギアチェンジすることが、求められているのではないのでしょうか。分野は違いますが、僕の場合、最初は空き缶やペトボトルのリサイクルから始めて、広告のこと、不動産のこと、そしてゴミ回収、リノベーション、スクール事業などと、地域活性化という目標は一緒なのに、やることはどんどん変わってきています。

建築も、接している領域を見れば、展開できることがたくさんあるのではないのでしょうか。縮小していく社会では、分業よりも統合化の流れが必要です。最近では、僕のまわりでも、ビジネスの範囲のみの設計ではなく、その周辺まで含めることで特徴を出そうとしている建築家が増えていきます。今まで建築家が取り組むべきと思っていた範囲が本当に正しいのか、そこを見直すことができれば、建築家のチャンスは、もっと広がっていくと感じています。

計画時から、投資回収の年数を意識し、その後の改修時期まで、設定しています。



Interview Kinoshita Hitoshi

木下さんの まちづくり マップ

Town Revitalization Map



稼げればよい わけではない

——経営的な視点をもった建築家が、いわば「稼げる建築」をつくれるというのが、まちの活性化にとって理想なのでしょうか。

木下 商業建築の場合、やはり稼げることは欠かせません。ただ稼げていれば何をやってもよいかという、そうではないと思います。そのまちの今後、10年あるいは20年先の方向性を示した建築であってほしいです。

たとえばナショナルチェーンを誘致すれば稼げるかもしれませんが、まちの商業建築のあり方として、僕はあまり賛同しません。それはまちがこれまでつくってきた資産のうえに、全国展開しているモデルをもってくることによって成功を得ているだけで、まちの価値を上げているとは思えない

「ブートキャンプ」に参加した後、まちづくり活動を行っている地域

岩手県	花巻市
山形県	鶴岡市
	山形市
東京都	豊島区
山梨県	甲府市
静岡県	浜松市
愛知県	岡崎市
	豊田市
福井県	福井市
大阪府	大阪市
	大東市
和歌山県	和歌山市
鳥取県	鳥取市
大分県	白杵市

ブートキャンプに参加した地域

茨城県	水戸市
神奈川県	横浜市
群馬県	高崎市
静岡県	沼津市
滋賀県	大津市
和歌山県	田辺市
岡山県	中之町
高知県	高知市
福岡県	北九州市黒崎
熊本県	合志市
大分県	大分市
鹿児島県	鹿児島市

木下さんがまちづくりに携わってきた地域

北海道	札幌市
岩手県	盛岡市
	紫波町
宮城県	仙台市
東京都	早稲田
	大崎
静岡県	熱海市
愛知県	名古屋市
	春日井市
兵庫県	豊岡市城崎町
福岡県	北九州市小倉
熊本県	熊本市
沖縄県	石垣市

まちづくりを手がけた地域のほか、木下さんがかかわる公民連携事業機構が行う勉強会「ブートキャンプ」に参加後、まちづくりを行っている地域もある。

いからです。安易な答えで稼ぐのではなく、当初は四苦八苦しながらまちの価値を上げる模索をすることが大切だと思っています。

大きくなくても、小さな一軒のレストランがまち全体を変える、ということはよくある話です。それは必ずしも建築だけではなく、運営の自身が魅力的なのかもしれません。ソフト面とハード面の相互作用によって建築の価値が最大化され、まちの方向性が示されていくものが大切だと思います。

際立ったデザインでも、最初は違和感があっても、その意味をもつていれば10年くらいするとなじんできて、まち全体に欠かせない存在になるもの。ひとつの建築物だけが評価されるのではなく、まち全体をよくしているもの。そういうものを意識し、新たな需要を生み出しつつ、全体の容積は増やさなければ、エリアの価値は、しっかりと上がっていきます。

ジョンソンタウンのまちなみ。1954年頃に建てられた米軍ハウスが連なっている。



緑あふれる小路に、手づくりの看板。
趣味の音楽を楽しみ、週末はテラスでバーベキュー。
家賃は周辺より高めだが、それでも入居希望者はたえない。
「米軍ハウス」を壊さずに使うことと、
徹底したまちなみ管理に、そのポイントはある。

特集／まちを起こす戦略としての建築 ケーススタディ その1

ジョンソンタウンがよみがえった

Case Study

1

Special Feature Strategy for Town Revitalization

作品

ジョンソン タウン

場所
埼玉県入間市



建築家
渡辺 治



施主
磯野達雄



施主
磯野章雄



米軍基地時代の写真



1960年頃の写真。当時住んでいたアメリカ人がこの地をなつかしんで、来訪することもあるという。

提供/ジョンソンタウン



路地は狭いが、施主の磯野さんがこだわって植栽し、住人の趣味があふれる場となっている。

「磯野スラム」からの再生

「磯野スラム」。管理する磯野商会の名をとって、この街区はいつしかそう呼ばれていた。始まりは、磯野商会が1933年に製糸会社から約20万坪の土地を取得したことにある。当初は農場を経営する計画であつ

たが、目と鼻の先に飛行場ができて陸軍航空士官学校が開校すると、家族を同伴する下士官などの住宅が必要になり、この地に「日本家屋が50棟ほど建てられた。太平洋戦争終結後には、農地解放政策のため、磯野商会には現状の約8000坪だけが残る。陸軍航空士官学校はGHQにより接収され、「ジョンソン基地」に改名。朝鮮戦争では同基地が米軍の最前線基地となり、基地外にも、将校や軍人と家族のための米軍用ハウスが求められた。その時点で、磯野商会は「米軍ハウス」24戸を建設。キッチン・ダイニングとリビング、ウォークインクローゼット、ふたつのベッドルーム、そして当時は珍しい一室にまとまった水洗面トイレと浴室に給湯器も設置されたプランであった。

78年に基地が自衛隊入間基地として返還されると、日本人向けに賃貸されていくが、次第に建物の老朽化と居住者の高齢化が進行し、家賃の低下と環境の悪化を生む負のスパイラルに陥るようになっていた。磯野達雄さんが兄から地区の管理を引き受けた96年には、相当に住環境が荒れ廃れていた

のである。「周辺では米軍ハウスはアパートなどに建て替えられていたのですが、ここは幸か不幸か、何もされずに残っていました。でも、米軍仕様の自由でのびのびとした雰囲気が好きで、わざわざ住みたいという芸術肌の人も少なくなかった。元の形できれいにしていよいよ住宅地にしようと思った」と達雄さんは振り返る。それから、約15年にわたる整備の道のりが始まった。

残すものと刷新するものを分ける

建築家の渡辺治さんがこの地区を知ったのは、事務所営業にきていた磯野さんの親戚の方との雑談からだ。紹介を受けて現地を訪れ、達雄さんから「この住宅地をどう思う」と聞かれた渡辺さんは「残しましょう。すばらしい住宅地になると思います」と答えた。学生時代に都市計画を学んだ渡辺さんは、ニューヨーク郊外の田園

都市に数カ月のあいだ、ある住宅の子ども部屋を間借りして留学生生活を過ごした経験があった。また、イギリスでコミュニティ施設やスラム化したまちの活性化事例を調査したこともあり、郊外住宅地の再生という点では格好の人物であった。渡辺さんと達雄さんは話し合いを密にし、路地の整備や電柱の移動といった通りの景観の整備を行う。加えて大きな特徴は、地区内での住宅の配置はほぼそのままに、米軍ハウスは改修して残し、日本家屋は新築の「平成ハウス」として刷新することであった。渡辺さんと同時期に、達雄さんの息子である磯野章雄さんもこの計画に加わる。章雄さんは住民に地区の未来予想図を伝えながら、居住移転の調整に奔走した。最初の4年ほどは整備の下地づくりでした。なししろ、家賃滞納が2000万円ほどあったのです。1軒ずつまわって、行政の窓口のように相談にのりながら移転を促していきまし「と振り返る。住宅の配置計画は、南向きをよしとする日本ではあまり見られない特殊なものだ。方位とは無関係に、住戸の入口とリビング



ジョンソントウン東側の
駐車場。来訪者はここで
車をとめ、徒歩でまちな
かを歩く。住人に配慮し
たゾーニング。



米軍ハウスのテラスと路
地。写真右から、建築家
の渡辺治さん、施主の磯
野達雄さん、章雄さん。

Isono Akio

Watanabe Osamu

Isono Tatsuo



は街路に向けられてまちなみが構成されている。建て替えでも同じ構成を踏襲し、魅力的な路地と庭を残して建物の規模を揃えていった。街区の構成と密度を、従前と同じようにしたのである。

米軍ハウスの改修では、土台や柱の一部が腐食していたが、それでも残そうと、ジャッキアップを行い、基礎をつくり替え、腐食部分は取り替えたり継ぎ足し、構造用合板で構造補強した。また床下や壁、屋根下に断熱工事を行い、サッシを交換して居住性を向上。床板やトラス、セメント瓦など、元の材料で使えるものは再利用した。「平成ハウス」は米軍ハウスと同じ規模、すなわち4間×5間で20坪の大きさで計画されている。建物の高さや屋根の4寸勾配も、米軍ハウスに揃えた。一方、トラス構造の米軍ハウスに対し、根太構造で屋根裏に居室を設けられるように工夫。外壁も米軍ハウスのように白い材の鍍張りであるが、防火のためサイディングボードを採用した。1階の床は土間コンクリート仕上げで、スラブ内には暖房が仕込まれている。渡辺さんは「GHQが戦後の住宅のプロトタイプをつくらうとしたように、現代の家族のためのプロトタイプを目指した」と語る。平成ハウスには、同じプランはひとつとしてないものの、出入りの仕方と1階の土間空間の様子は共通。庭から続くデッキテラスを通してリビングに入るプランで、リビングと隣接する予備室や個室も、間仕切り戸をあければ一体となり、米軍ハウスで見られた様式、ライフスタイルを継承している。外部からほぼフラットに連続したおらかなつくりは、バリアフリーの住居に適している。結果的に、店舗併用の入居者やペッ

北側から見たジョンソンタウンのまちなみ。米軍ハウスと平成ハウスの見分け方は、前者が瓦葺きで横長窓、後者がスレート葺きで縦長の上げ下げ窓があること。



ジョンソンタウン配置図



タウン内には4種の建物が約70棟ある。米軍時代を踏襲して、各建物には番号がついている。

整備が進み、この地区景観にひかれた店舗が増え、かつての基地名にちなんで「ジョンソンタウン」として知られるようになる。個性豊かな住人が増えたひとつの要因は、室内の改修については自由度が高いことにある。米軍ハウスも平成ハウスも、管理事務所に工事内容を事前に申請して認められれば、内装や造作のカスタマイズが可能。一方で、外まわりに手を入れることは禁止され、街区の環境保全が図られている。これは、この地区の維持管理ならではの特徴を生かしたメリットといえる。賃料は、周辺相場よりも高く設定したが、住人の地区離れはなく、タウン全体の年間利率は章雄さんによると、かかった建設コストの2割を超えている。

現在の世帯数は130、住人の数は約200名。ジョンソンタウンには50を超える店舗があり、飲食店、物販店、フォトスタジオやダンススタジオなど、さまざまな業種業態が集まり、近しい景観が人々の興味を引くこととなった。平日も人通りはたえないが休日は特に賑わい、現在の年間の来訪は車の利用者で30万人、歩行者を含めると40万人を超える。車両の通行量の増加に伴い、歩行者が危険にさらされることが長らく問題とされていたが、外来用のまとまった駐車場用地をタウンの端に取得するこ

周辺相場より高い 賃料でも 地区離れはない

ト飼育を増やすことになり、街区全体の特徴となっている。

米軍ハウス



リビング兼喫茶店。奥はテラス。上部ロフトは住人による改修。トラスの小屋組みは当時のまま。



建物南側のテラス。室内とテラス間には段差がないため、リビングと一体化して利用される。

入口側外観。解体された家の古材を用いたウッドデッキには、ヴィンテージカーが置かれている。

とでクリア。今では地区内を通るのは住民の車両や郵便車などに限られ、徐行が求められている。

にぎわいが出てくると同時に、店舗を設けず住宅専用で暮らしている住民の不満や不安は高まりがちだ。だからといって明文化した規則を多く設けるのでは、みんなが息苦しくなってしまう。管理運営をする章雄さんは「ここを魅力と感じて集まってこられる人たちのクリエイティビティを生かしたい。住民の協力を仰いでクリスマスイベントや子ども向けのコンサート、青空市を開催するなどしています」と、コミュニティ形成に力を入れることで問題を解決しようとする様子を語る。

タウン内で暮らす傍らアメリカカンダイナールと物販を行う「BLUE CORN」の店主、小林大介さんは「隣人との距離が近く、休みの日にはパーベキューなどでテラス前に自然と人が集まります。タウン内はテーマパークのような感覚なので、物干しを表に出さないようにする決まりも納得できますし、焼き魚のニオイはそぐわない。食べ物まで、アメリカ仕様にな変わってきました」と笑う。

安心できる まちを目指して

渡辺さんは、培われてきた住環境とコミュニティによって、当初思い描いた「安全・安心のまち」が実現しつつあることに満足の表情を浮かべる。「はじめはタウンに住む子どもは0でしたが、今では50人ほどに

米軍ハウス 「1123棟」

建築概要

所在地	埼玉県入間市東町
主要用途	スタジオ併用住宅
建主	磯野商会
設計	吉沢建設
構造	木造
施工	吉沢建設
階数	地上1階
建築面積	104.80㎡
延床面積	93.15㎡
竣工	1954年

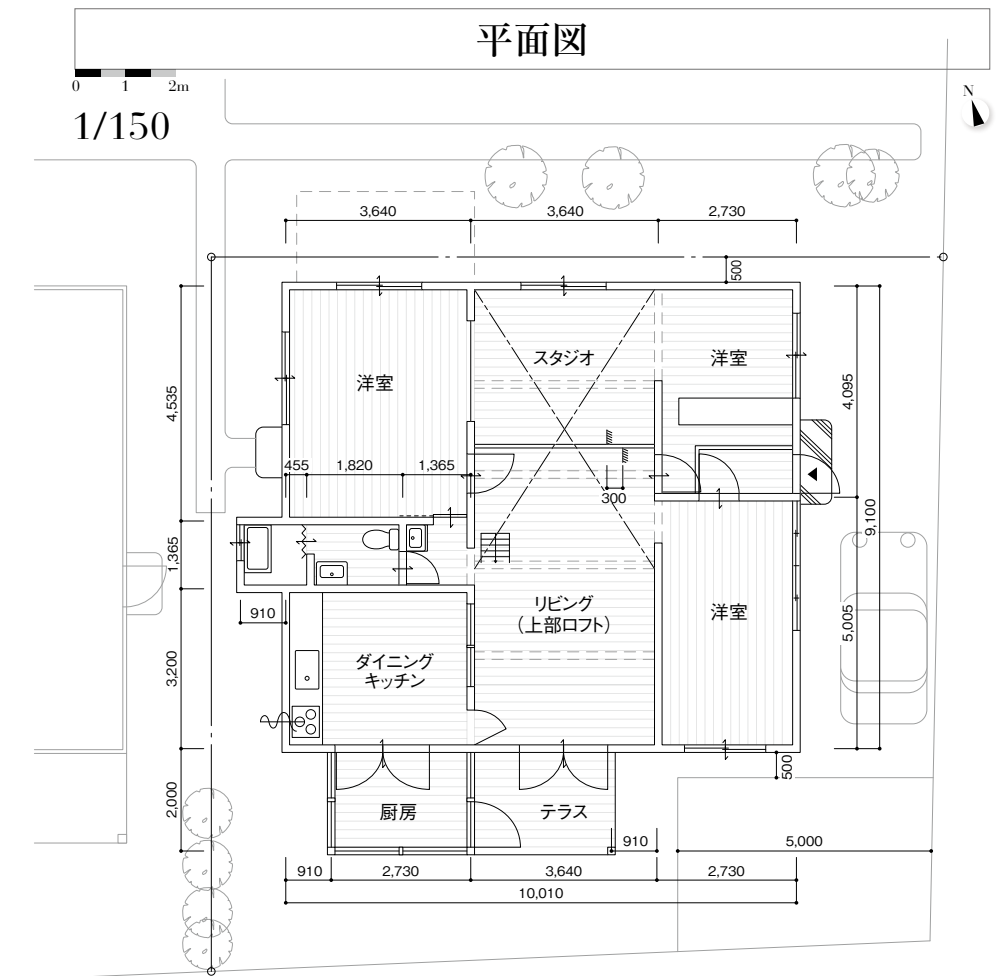
おもな外部仕上げ

屋根	セメント瓦
外壁	南京下見板張り
開口部	アルミサッシ
外構	テラス

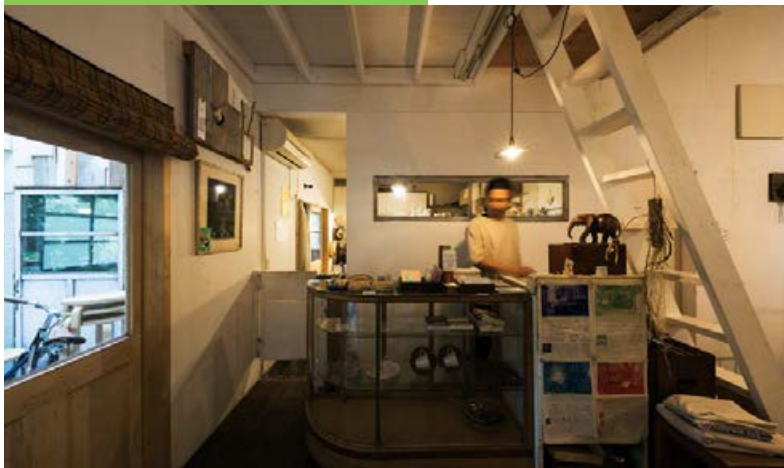
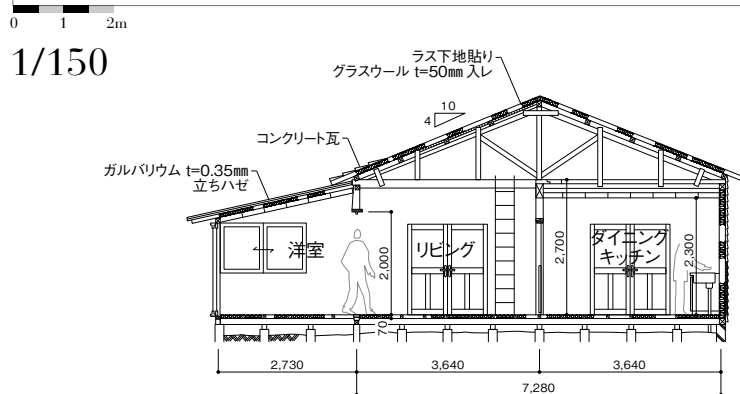
おもな内部仕上げ

スタジオ	
床	既存(アビトンフローリング張り)
壁	OSB t=9mm AEP仕上げ
天井	小屋現し、杉乱板張り
洋室	
床	パインフローリング張り
壁・天井	OSB t=9mm

ロフト下のスペース。奥にキッチン、左にテラス。ここに住みながら、喫茶店「guzuri」を営んでいる。



断面図



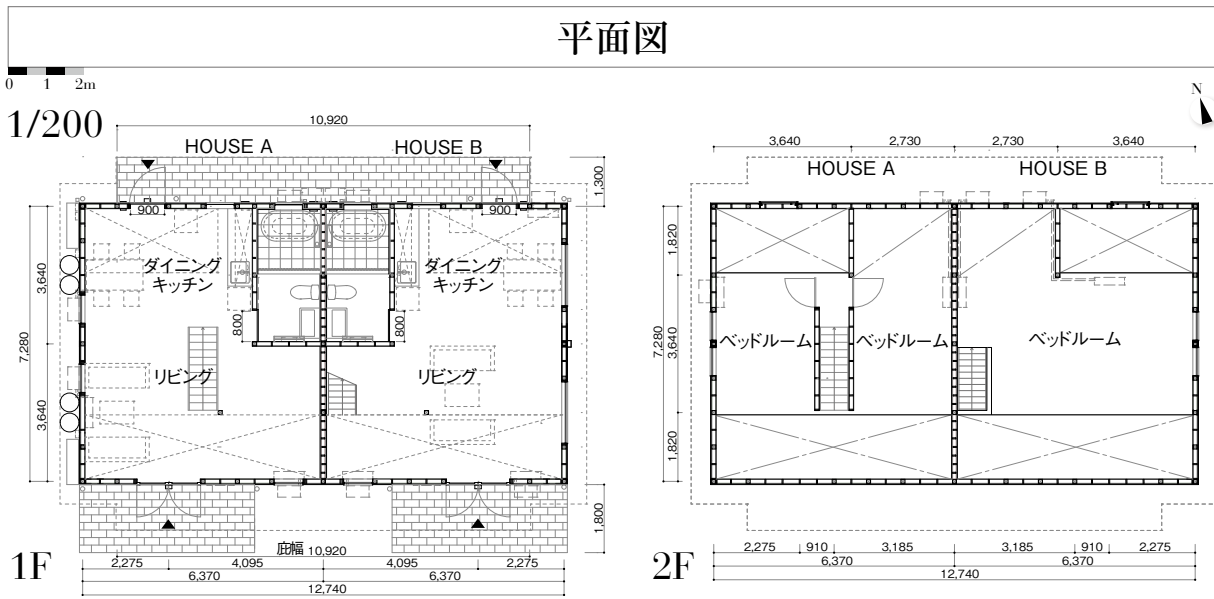
なって、路地を散歩する親子の姿も多くあります。それだけでなく、高齢者や障害者もバリアフリーの住居に魅力を感じて、暮らしはじめています」と語る。最近、公共的に使える身障者用トイレをタウン内に設置したほか、住戸内に握り棒や昇降機を設置した例もある。ジョンソントウンは、幅広く多様性を受け入れるまちとなった。

受け継いだライフスタイルを軸とした転換を経て、負のスパイラルから歯車は逆に回転しはじめた。さまざまな相乗効果を生み出し、ジョンソントウンの魅力は高まりつづけている。

平成ハウス



平面図



そのほかのハウスの種類

日本家屋

1938年頃、日本陸軍の駐在時代に建てられた住宅。写真は2軒長屋形式で下見板の外壁は、ジョンソントンタウンに合わせて改修。4棟のみ残る。



平成ハウス 「5443棟」

建築概要

所在地	埼玉県入間市東町
主要用途	専用住宅
建主	磯野商会
設計	渡辺治建築都市設計事務所
構造設計	同上
構造	木造
施工	波多野建築
階数	地上2階
敷地面積	253.91㎡
建築面積	99.32㎡
延床面積	149.05㎡
設計期間	2007年5月～10月
工事期間	2007年10月～12月

おもな外部仕上げ

屋根	平形彩色スレート葺き
外壁	縦張りサイディング t=16mm
開口部	アルミ製建具、樹脂製建具、木製建具
テラス	レンガ積み

おもな内部仕上げ

リビング、ダイニング、キッチン	
床	コンクリート打放し金こて仕上げ
壁	OSB t=9mm
天井	構造用合板 t=28mm、OSB t=9mm (吹抜け部分)
ロフト	
床・壁・天井	OSB t=9mm



写真右/1階リビング。米軍ハウスを踏襲し、外まで段差なく連なる。そのため、玄関室は設けていない。中上/建物外観。2住戸で1棟の長屋形式。

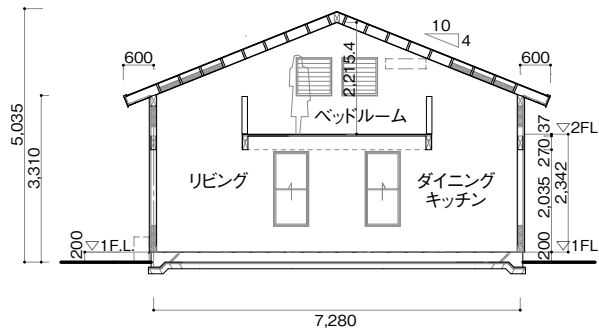
写真左/水まわり。バスルームには洗い場を設けている。中下/2階ロフト。居住者による改装を想定、改装しやすいOSB板を内装材としている。



断面図

0 1 2m

1/150



渡辺 治
Watanabe Osamu

わたなべ・おさむ/1959年北海道生まれ。85年北海道大学修士課程修了。86年ペンシルバニア大学修士課程修了。91年東京大学博士課程修了。92年渡辺治建築都市設計事務所設立。おもな作品=「多摩川幼稚園」(94)、「至誠第二保育園万願寺分園」(2001)、「東京ゆりかご幼稚園」(14)。

セキスイ ハイムMI

1970年代に、日本で初めて開発されたユニット工法が用いられた住宅。工業化住宅では唯一、DOC OMOMO JAPANに選定されている。



檜村徹さんが、倉敷の町家改修を始めて30年。
手がけた数は57軒にのぼる。
その手法は、古建築をそのまま保存するものではなく、
町家の「奥」まで入りたくなる空間を、
つくりあげるものだった。



写真右／旧街道沿い。中央に築約170年の町家を改修した、クラシキクラフトワークビレッジ。左／改修で生まれた「通り土間」。その前に立つ建築家の檜村さんと施主の青山さん。

Special Feature Strategy for Town Revitalization

Case Study

2

作品

クラシキ クラフトワーク ビレッジ

場所

岡山県倉敷市



建築家
コーディネーター
檜村 徹



施主
青山典雅



Aoyama Norimasa

Naramura Toru

特集／まちを起こす戦略としての建築 ケーススタディ その2

町家の奥まで、人を引き込む

敷地の最奥の店舗から中庭を見る。中庭はもともと立っていた棟を取り壊した後、空き地だった。



知らないまちを訪ねたとき、まずそのまわりで一番高い山に登って眺めるといい。そう教えられたことがある。俯瞰した視点でまちを見渡せば、まちの形からその歴史までもが、なんとなく見えてくるものだ。岡山県倉敷市の美観地区も、鶴形山の裾に広がっている。さて、この教えに従って、倉敷のまちを見渡すと、おどろきがあった。町家の連なる通りに囲まれた内側には、生活を支える「奥」が広がっていたのだ。

観光で にぎわう 美観地区

倉敷は江戸時代、幕府の直轄地、いわゆる天領として大いに栄えた。水運でにぎわった歴史を、倉敷川の景観が物語っている。明治に入ると、倉敷紡績（通称クラボウ）が設立され、煉瓦造の近代的な工場が建てられた。また、建築家の薬師寺主計による日本で初めての近代美術館である大原美術館をはじめ、浦辺鎮太郎、そして丹下健三による近代建築も町家の風景のなかに織り込まれている。そうした、近世や近代の建築が、渾然となり広がっているのが倉敷の特徴だろう。

倉敷の歴史ある景観を開発から守ろうと、1969年に倉敷市の条例に基づいた美観地区、さらに79年には国の重要伝統的建造物群保存地区として選定された。そして今では、年間300万人以上が訪れる、全国屈指の観光地となっている。

とはいえ、すべてがうまくいっているわけではない。地域住民を相手にしていた商

店は、観光客をターゲットに変え、土産物屋へとその軒先を変えていった。一方で、観光客でにぎわう運河沿いではない、旧街道のあたりでは空き家も目立つ。それは、店として貸し出すことで、美観地区から住まいを移す住民も少なくないからだ。じつは、先に触れた通り沿いの町家の裏側に広がる「奥」は、地域住民の生活空間でもあった。しかし、生活圏が外に移ることで、この奥は次第に忘れ去られ、徐々に取り壊されてきた。そしてこの状況は、今なお続いているのである。建築家の檜村徹さんは、まさに、この「奥」を生かすことによって、まちを活気付けようとしている。

まちの 「奥」が 空いている

檜村さんが、まちを歩けば、おのずと声をかけられる。「ちよっと中、入っていい」そう言っつて、スツと奥へと入っていった。町家を抜けて奥に抜ける鍵は、檜村さんの顔の広さにある。岡山県倉敷市に生まれ、卒業後も地元の建設会社の設計部に勤めた檜村さんにとつての倉敷は、まさに子どもの頃からの遊び場だ。

88年には、同じ志をもつ仲間と、岡山周辺で「古民家再生工房」を設立する。これは、取り壊される地域の古民家に手を入れて、住まうことのできるようにする設計集団である。いわゆる改修であるが、決して保存という観点だけからの取り組みではない。「民家には、長い時間をかけて生み出されてきた造形がある。たった数十年の経験



写真右上／中庭に面した店舗は、開放的な造り。中央には、改修前からここにあった井戸が残されている。



写真右下／2階テラスから通り土間を見下ろす。通り土間の上には、軒が深く張り出している。



写真左／通り土間はゆるやかな上り坂で中庭まで連なる。各店舗は通り土間に面して入口をもつ。

で生まれるデザインよりも、長い時間をかけて生み出されてきた民家の造形に学びながら、今の姿に改修するほうがよい。そう語るデザインへの哲学は、建築家としては謙虚すぎるほどである。

一方で、その手法は時に大胆だ。古い構造が使えないならば取り替えればいい。ただ、新しい材料を古く見せかけけることはしない。以前は、新旧の材の色を揃えたこともあったらしい。しかし、やってみて何か違うという印象を受けたという。そのため、今は継ぎ接ぎな見た目も許容する。むしろ、そこに歴史の積み重ねを感じることでできるからである。

こうした態度を、檜村さんは「町医者」となぞらえる。町医者だからこそ、日々の変化にも気付いて、こまめな手当てができるというものだ。だから自分の手の届く範囲で仕事をしたい、「まあ自転車で行ける範囲かな」と笑う。

クラフトの まちへ

そんな檜村氏を、かかりつけ医に選んだ若い店主がいる。クラシキクラフトワークビレッジの代表、青山典雅さんである。現在、6軒の店が集うこの場所もまた、町家を再生したものだ。ここは、青山さんの家族が代々所有し、最近まで住宅として貸していた町家であった。

このワークビレッジの特徴はなんといっても、それぞれの店内に工房が併設されていることだろう。ガラスペンを制作する工

房もあれば、デニムで服をつくる工房もある。さまざまな作家たちがここに工房を構え、販売までしている。本来であれば、店舗の面積をより広く設けたほうが商売のうえで有利だろう。しかし、あえて工房を併設したのは、日本の民藝運動ともゆかりの深いこの倉敷に、あらためて「手仕事」を根付かせ、倉敷から若い力で発信したいという、青山さんの想いからだ。

だから、改修にあたっては一部、公的な補助金を利用している。補助を使うのは、イニシャルコストを下げることで、若い人たちの参入のハードルを下げるのが目的である。入りたいという声をあげる店が、主旨に合わないかと判断すれば、断ることもあるのだという。

じつはこうしたマネージメントから、入店する店の検討まで、檜村さんも施主とともに考えてきた。設計業だけでなく、コンサルティングまでこなしてしまうのだ。「最初から最後まで一緒に考えてくれる頼りになる存在です」と青山さんは語る。「私の仕事は本来、竣工すればそれで終わりかもしれない。でも、彼らにはその先があるから」。そう語る檜村さんの言葉には、倉敷の未来を担う若い人たちへの期待が込められている。

奥に 引き込む テクニク

クラフトワークビレッジの敷地も、また先の例にもれず、奥が空き地として残っていた。そこで、表に面した町家だけでなく、



Place ①

クラシキ
クラフトワーク
ビレッジ



Place ②

林源十郎商店



Place ③

クラシキ庭苑

この奥に複数棟の店舗が計画された。しかし、町家は壁ともなり、見通すことができない。この問題を解決するため、檜村さんは、人が奥に引き込まれるように、「通り庭」を設けた。通り庭とは、町家には昔からある形式で、表から、裏側の建物まで続く土間のようなものだ。外か中か、区別の付かない空間で、奥に歩みを進めるハードルをぐっと下げる。通り庭のその先に、明るい中庭を設けているのもポイントだろう。薄暗い通り庭の向こうに落ちる光に誘われ、観光客も奥へ奥へと引き込まれていく。また、元からあったという井戸もそのままにし、それを広場としながら、ぐるりと店舗

が囲んでいる。オープニングのセレモニーも、この広場を使って行うなど、これからもさまざまなイベントが、この小さな広場を中心に行われていきそうだ。檜村さんは、このワークビレッジに限らず、こうしたテクニクによって、この美観地区の奥を生かそうとしている。

点を繕って 面に していく

もちろん、こうしたメソッドは、一朝一

夕に獲得されたものではない。これまでに50軒を超える改修を手がけてきた。長いものでは、検討期間を含めて8年以上かかったものもある。こうした倉敷にかかわる仕事は、できて1年に1件が限界だという。むしろ大事なのは、一つひとつの質。民家を改修し現代に生かすことが、きれいごとだといわれないうために、使いながら残すための方法を、とにかく一緒に考えていく。そうした積み重ねがあつてこそ、まちの奥への切り口を見つけてきたのだろう。これまで運河沿いに集中していた観光客の動線が、クラフトワークビレッジも面する旧街道沿いにも流れてきているなど、倉敷の美

しいまちなみが徐々に広がりがつつある。檜村さんは何度も、こう語っていた。「倉敷のまちは歴史あるまちなみが、面として残っている。だから倉敷は、幸せなまちなんだ」と。そう、倉敷には、まちなみという線ではなく、まちが面に残っている。檜村さんの改修は、そうした面に残る一つひとつの点を丁寧に、そして継続的に繕っていく作業なのかもしれない。だからこそ、時間がかかる。そんなあたりまえのことを、きちんと継続することの強さこそが、檜村さんの戦略なのだろう。長い時間を見越した戦略だって、もちろんあるのだから。



まちなみの俯瞰写真。中央に、クラフトワークビレッジ。周囲にも連綿と町家が連なっている。

美観地区・旧街道周辺での檜村さんの活動



地図からも、檜村さんが敷地奥まで考慮していることが読み取れる。右写真は、檜村さんのそのほかの改修事例。

- 旧街道
- 檜村さんが設計した建物
- 檜村さんが計画に関係した建物



2階には、如庵写しの茶室を併設。施主の青山さんの趣味のスペースで、イベントにも利用。



ガラス工芸を取り扱う店舗。工房を併設するため、職人の手仕事を見学しながら選ぶことができる。

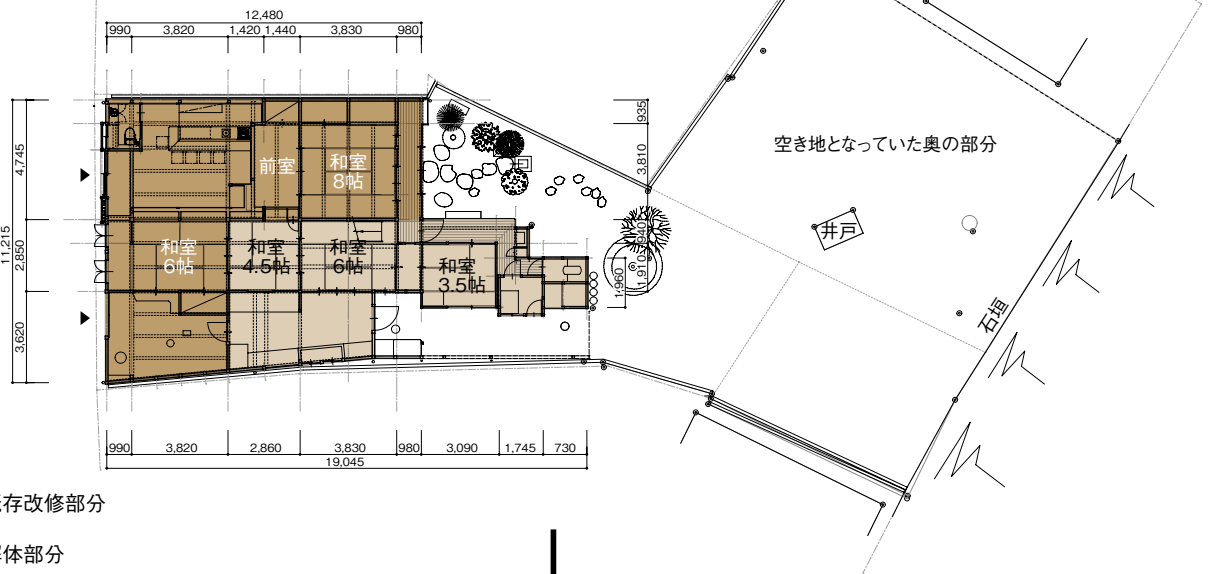
平面図

0 2 4m

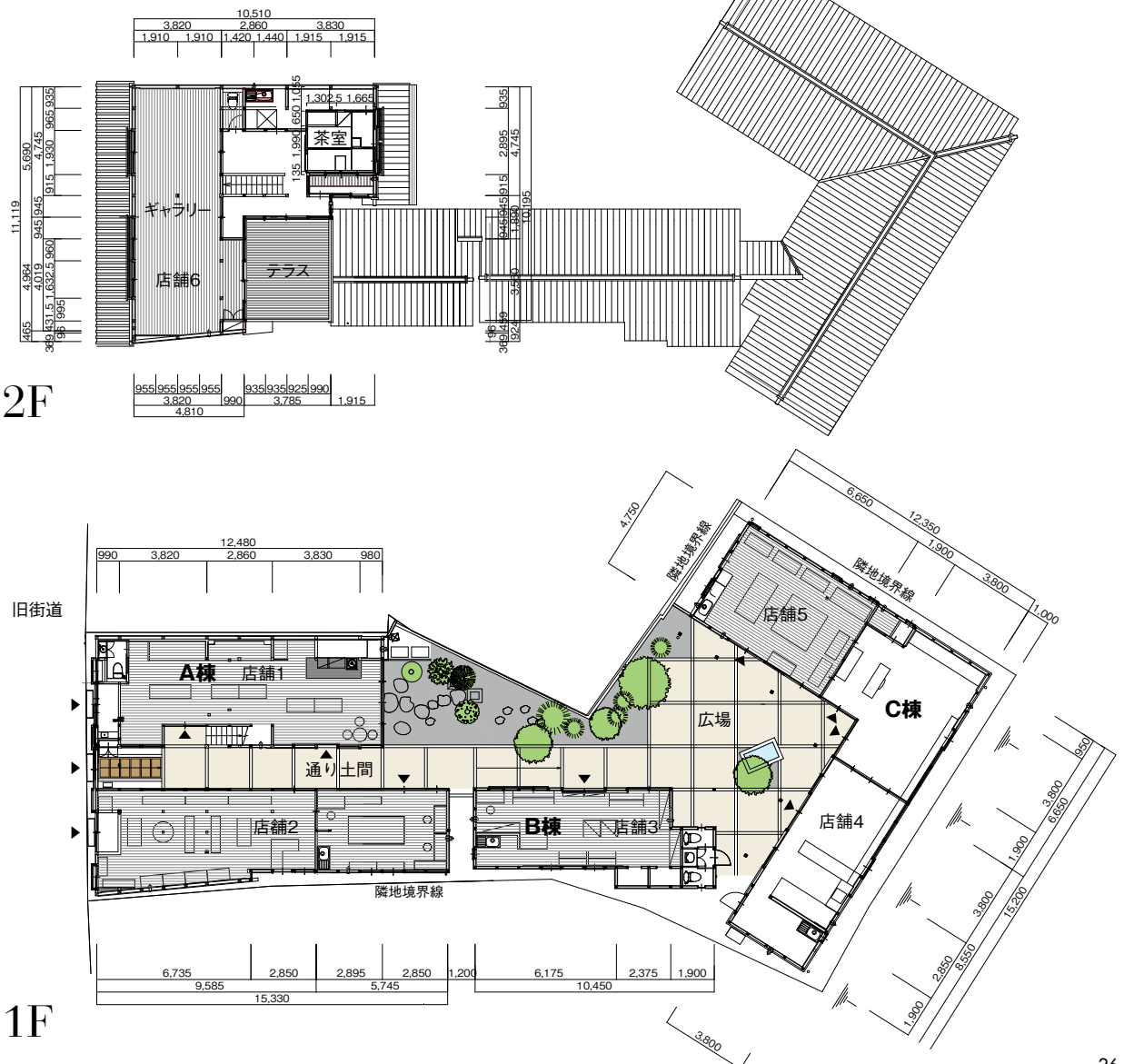
1/300



改修前



改修後



「クラシキ クラフトワーク ビレッジ」

建築概要

所在地	岡山県倉敷市本町1-30
主要用途	店舗
建主	クラシキクラフトワークビレッジ
設計	倉敷建築工房 檜村徹設計室
構造	木造
施工	藤木工務店
階数	地上2階
敷地面積	470.70㎡
建築面積	315.40㎡
延床面積	357.13㎡
設計期間	2015年10月～2016年5月
工事期間	2016年7月～2017年3月

おもな外部仕上げ

屋根	日本瓦葺き
外壁	漆喰塗り、杉板張り
開口部	木製建具、鋼製建具
外構	ジャミコン洗い出し

おもな内部仕上げ

店舗1、2、3	
床	松フローリング t=15mm
壁	漆喰塗り、ジョリパット塗り
天井	松板 (一部既存再利用)
ギャラリー	
床	松フローリング t=15mm
壁	漆喰塗り、ジョリパット塗り
天井	杉板 t=12mm、垂木現し
店舗4、5	
床	カラクリート+シールハード塗り
壁	色漆喰塗り
天井	杉板 t=12mm、垂木現し



檜村 徹

Naramura Toru

ならむら・とおる/1947年岡山県倉敷市生まれ。72年広島工業大学卒業後、地元
の建設会社勤務。81年倉敷建築工房・檜
村徹設計室設立。88年古民家再生工房設
立。2010年～倉敷市中心市街地活性化協
議会タウンマネージャーを務める。おも
な作品＝「甦る民家」(87)、「林源十郎商
店」(12)、「クラシキ庭苑」(14)。

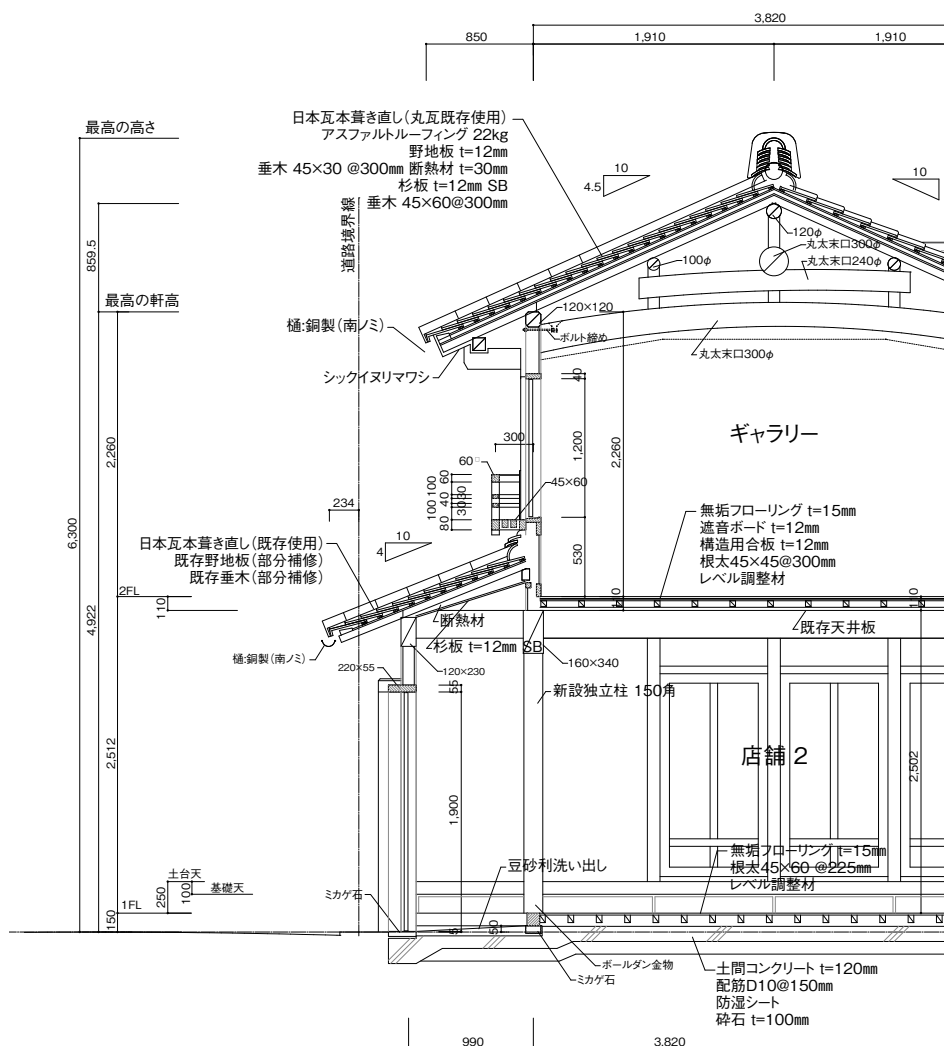
断面図

0 0.5 1m

1/60



2階ギャラリー。小屋組
みは当時の古材を使用。
垂木や窓まわりは色の白
い新材が同居している。



作品 福山市本通・船町商店街アーケード改修プロジェクト

とおり町 Street Garden

場所 広島県福山市



建築家
前田圭介



施主
北村洋一
(本通商店街)



施主
作田英樹
(本通船町商店街)



コーディネーター
木村恭之

Kimura Yasuyuki

Kitamura Yoichi

維持費のかかるアーケードはやめ、
緑で商店街をつなぐ。
さらに、揺れるワイヤーのひと工夫。
若い建築家のエネルギーで、
まちがすっかり明るくなった。

本通・船町商店街。中央に計画の中心人物である4名。通り沿いに緑が続き、その上方にはワイヤーでつくられた新たなアーケード。



Maeda Keisuke

Sakuda Hideki

特集／まちを起こす戦略としての建築 ケーススタディ その3

日光も風雨も感じるアーケード

「街路は合意によるルームです。それはコミュニティルームであり、その壁はそれぞれの提供者たちのものです。その天井は空です」

近代建築の巨匠、ルイス・カーンのよく知られた言葉である。街路は車のためだけにあるのではない。空を天井とした気持ちのよいコミュニティルームであるべきだ。確かに、そうあってほしい。

しかし、そこには壁だけではなく、道路や消防に関する決まりがある。インフラも関係し、事業主体はさまざま。ひとつの部屋としてとらえられるような街路を得るためには、関係者との膨大な合意が必要だ。「とおり町ストリートガーデン」を歩きながら、少し気の遠くなる想いがした。

この「とおり町ストリートガーデン」は、福山本通商店街と福山本通船町商店街という、ふたつの連続する商店街が一緒になって計画したもの。完成は2016年。正直、初めて見る光景だ。実現に至るまでには、いったいどんな合意があったのだろう。本通商店街の北村洋一さん、船町商店街の作田英樹さん、福山商工会議所の木村恭之さん、そして設計を担当した建築家・前田圭介さんに話を聞いた。

商店街

もう

やめようか

そもそもの発端は08年。北村さんいわく、当時、全部で約100軒の店舗のうち、空き店舗は30軒にのぼり、商店街消滅の危機

が間近にせまっていることを感じたという。商店街にあった全蓋式のアーケードも、築後30年を経て老朽化。すぐに手を打つ必要があった（現に、船町周辺ではアーケードの落下事故が発生した）。これが潮時、もうやめようか。商店街のメンバーに、そう問いかけた。ところが、その返答に驚かされた。みな、まだ商店街の誇りや希望を捨てていなかったのだ。

では具体的にどうするか。毎年100万円前後の維持費がかかっていることを考えると、やはりアーケードは撤去が現実的だろう。ただ、撤去すると縦横無尽に走る電線が現れるので、ぜひ地下に埋設して、すっきり明るい商店街にリニューアルしよう。そんな計画がもち上がってきた。

ところが市へ問い合わせたところ、電線の埋設は順番待ち状態。かなり先の工事になることがわかった。待つてはられない。うまく電線を隠せないか。そうだ、ガーデンストリートはどうか。樹木なら劣化しないし、電線もうまく隠れそうだ。早速、設計者探しが始まった。

柱を残す 想いを託す

前田さんに設計の相談が舞い込んだのは、商店街が実施している七夕のイベントがきっかけだという。笹と短冊を届けに行った先の保育園が、前田さんの設計だった（「Peanuts」12年）。室内まで土の地面が続く、緑豊かな保育園。ガーデンストリートの設計者にびったりじゃないか。

相談をうけた前田さんは、まず状況の調査にのり出した。また、それに加えて商店街メンバーへの聞き取りも実施。すると、「みなで真剣に議論をして建設したアーケード。たった30年で壊すなんてバカバカしい」。きびしい意見が飛んだ。撤去前提の相談ではあったが、アーケードに強い愛着をもっている人が、まだ多くいることを実感した。「この30年は商店街にとって重要な歴史。そこで、当時の決断やその後の思い出を柱に残そうと提案しました」とは前田さん。最初は、雲のような形の天蓋をランダムに設置する案もあったが、試行錯誤の末、ワイヤーを用いることにした。

維持費が かからない こと

このワイヤー案は、柱の上部に丸桁を走らせ、全部で7000本のワイヤーを吊るしたものだ。見上げれば空。見通せば、連続するワイヤーが風に揺れ、きらきら光る雲になる。そんな提案である。

なぜワイヤーが選択されたのかといえば、それはコストカットである。そもそも商店街が求めたのはガーデンストリートで、建設費や維持費がかからないことを重視していた。そこで目を付けたのが、メンテナンスフリーのステンレスワイヤーだった。国内外から大量のサンプルを取り寄せ、その表情の違いを吟味しつつ、事務所などで暴露試験を実施した。錆びないか、台風ときどうなるか、雨が降るとどんな雫が落ちるのか。不安なこと、わからないことをす

べて確認していった。もちろん、磨耗試験も実施。50年はそのままで大丈夫とわかり、提案が現実味を帯びてきた。天蓋にワイヤーを選んだことで、当初4億円と試算されていた建設費も2億円台にまで下げることができた。

では、そのワイヤーを、どう設置すべきか。関係各所との協議が始まった。たとえば消防。万が一火災が発生した際、水は届くが、ワイヤーが人命救助の妨げになる。そこで前田さんはワイヤーをワイヤーで吊ってはどうかと提案した。丸桁に並行して親ワイヤーを走らせ、これに子ワイヤーを取り付ける。親ワイヤーを切るだけで、子ワイヤーがごっそり落ちる。

ワイヤー上に走る電線の点検や整備はできるか。この問題は、複数本のワイヤーを束ね、開いた所へ高所作業車のカゴを下からくぐらせることで解決した。ワイヤーのたわみは、道路交通法上必要な高さを満足させつつ、カゴがくぐるのに十分な量になっている。こうした協議から、ディテールや寸法が決まっていた。

まちを 統一する緑

道路や植栽の協議も大変なものだった。というのは、道路の事業主体は福山市。土木工事に建築家がかかわることは珍しい。前田さんは設計監修として加わることができたが、最初は理解を得るのに苦労したという。加えて、市が工事を進めるためには、メンバー全員の合意が必要だった。



Before

改修前の本通・船町商店街には、築30年の全蓋式アーケード。計画時には、30%近くの店舗で、シャッターが下りていた。

提供/UID

改修後の商店街を見下ろす。上空には電線が通るが、下からは気にならないようにワイヤーと並行に張り直した。



新しいアーケードはさまざまな表情を見せる。日光があたると白く光り、薄いカーテンのよう。



夜になると、ワイヤーがライトアップされる。毎週土曜日には、夜店のイベントを開催。



まず、両側通行だった車道は片側に変更し、通行できる時間に制限を設けた。商店街では通過交通が問題になっていたの、これはみなとの合意がとれた。

植栽についてはどうか。前田さんは、高木を8種、中木と低木をそれぞれ11種ずつ、そのほか地表を覆う植物をリストアップし、全店舗をまわって、その組み合わせを決めていった。ポインツは、高さの異なる樹木を組み合わせることに。商店街を見通すと、建物の不調和やアーケードの撤去跡がうま

わず参加したくなるような方法ではないか。「各店舗の雰囲気、好みが反映されているので、店舗と道路に一体感が生まれたと思います」とは、まちづくりコーディネーターを務める木村さん。「散歩する人がかなり増えました。水やりをしていると木の種類をたずねてくれる人がいて、なかにはお店に入ってきてくれる人もいます。こんな光景は今まではありませんでした」とは作田さんの言葉。前田さんの苦勞が報われた。

商店街の今

そしてこれから

こうして商店街は、再出発を果たすことになった。福山藩の商いの中心として栄え

たこの道は「とおり町」と呼ばれていたが、それにちなんで名前も一新された。出だしは上々。30軒あった空き店舗も、産直野菜の販売や、子育てカフェなど、コミュニティを意識した店舗を中心に、すでに11軒が埋まった。

気持ちも前向きになる。「そろそろ、周辺エリアを含めた全体の構造や、まちなかの人の動きを具体的に分析するべきです。まちの回遊性が重要なキーワード。それには、商店街を超えた取り組みが必要です」。商店街の今後をたずねると、みな街路から都市へと視野を拡大させている。現に、最近では近隣商店街との連絡協議会が発足したそう

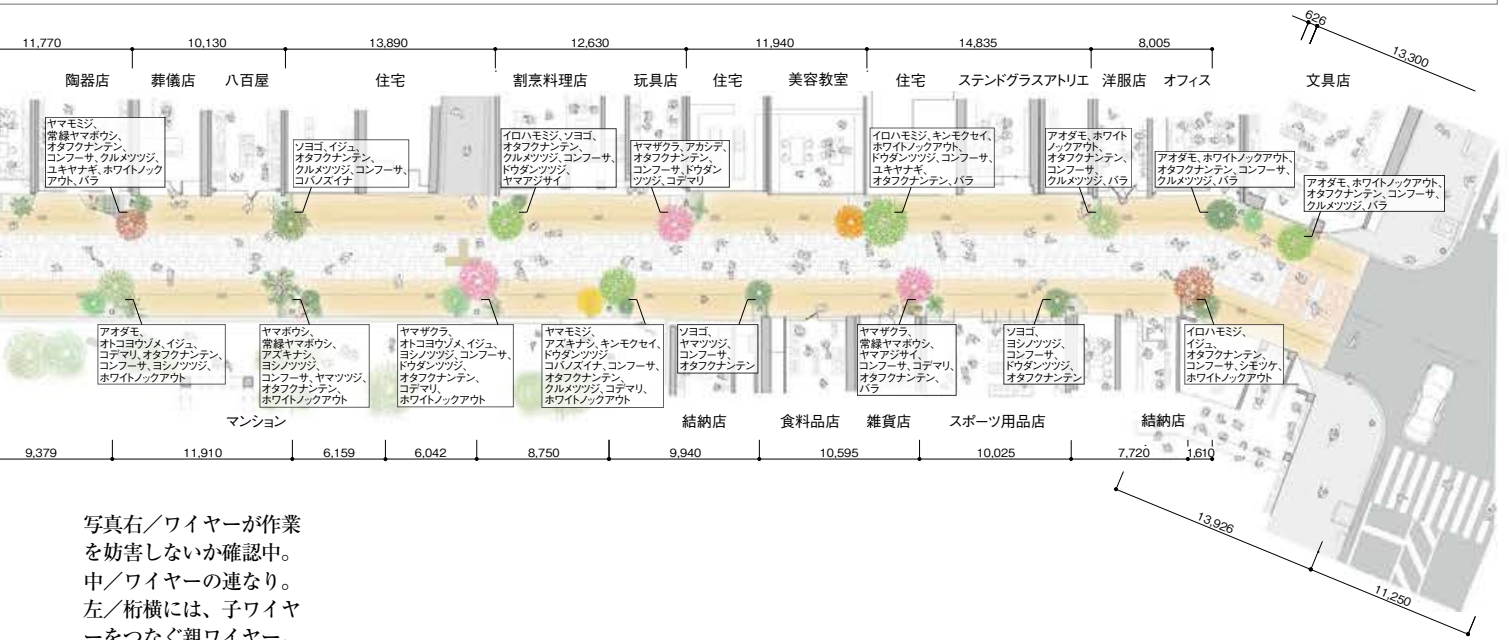
「この計画にかけた想いは、世代交代とともに薄れていきます。どうすれば、その想いを紡いでいけるか。それが大切だと思

ます」。そう話す前田さんは現在、商店街の一面に、この商店街の改修に携わるきっかけとなった保育園の園長と、まちなか保育の場を計画中。その保育園は給食の味に定評があることから、市民が利用できる食堂を併設する計画だそう。なるほど、そこで子どもたちと商店街の大人たちがつながる。想いを紡ぐ建築。まちの持続性とはこういうことか。

都市へのまなざし。歴史や想いを紡ぐ子どもたち。そんな話を聞くと、再びカーンの言葉が思い出される。子どもたちが自分の将来を想像できる、そんな都市の姿だ。

「都市とは、その通りを歩いているひとりの少年が、彼がいつの日かなりたと思うものを感じとれる場所であってはならない」

平面図



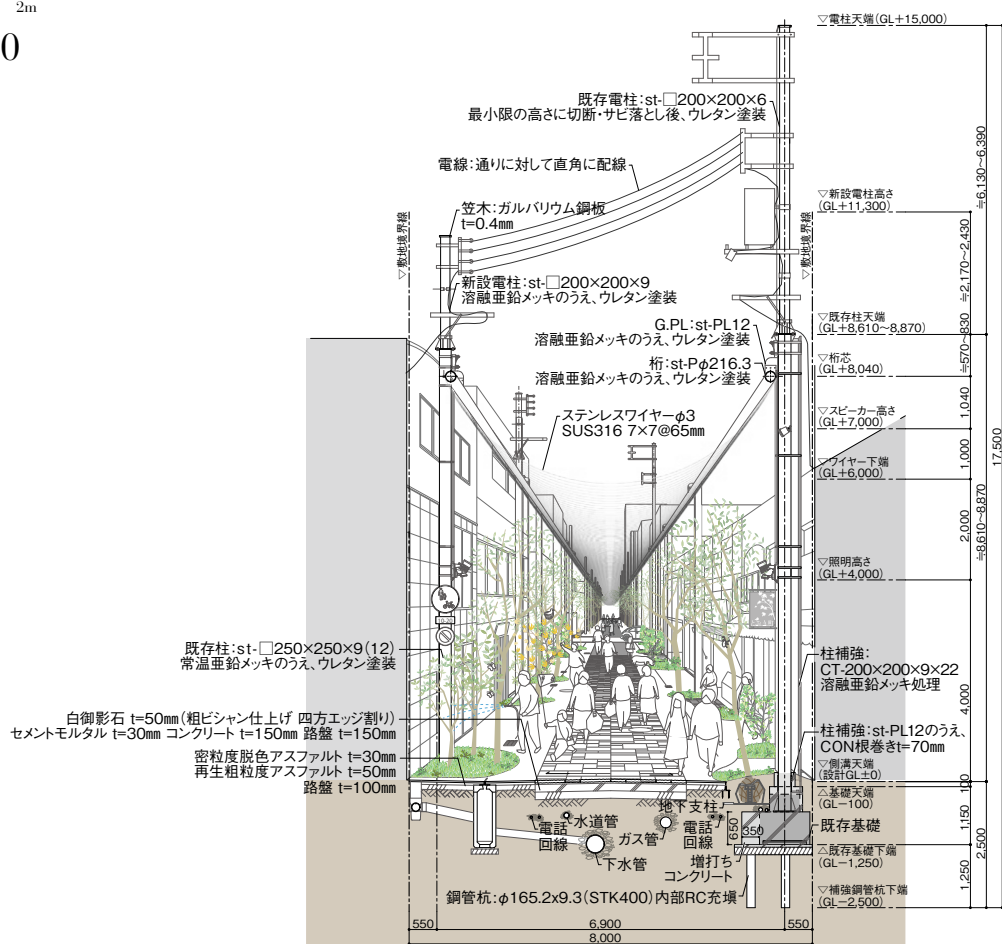
写真右/ワイヤーが作業を妨害しないか確認中。中/ワイヤーの連なり。左/桁横には、子ワイヤーをつなぐ親ワイヤー。



提供/UID

断面図

0 1 2m
1/150



シェア フラット 馬場川

場所
群馬県前橋市

一時的なイベントのにぎわいではなく、
日常的に、商店街の人を増やしたい。
シャッターが目立つアーケードの一角に、
空きビルを再生した、学生マンションが誕生。
大学のもつパワーが波及して、
まち全体が動きはじめた。



建築家
石田敏明



施主・管理人
大橋慶人



コーディネーター
小林義明

Ishida Toshiaki

Ohashi Yoshito

Kobayashi Yoshiaki

Boutique
PENNY BLUE

中央通り商店街のアーケードと右に「シェアフラット馬場川」。2階には計画の中心となった3名と、住人の学生たち。



特集／まちを起こす戦略としての建築 ケーススタディ その4

商店街に学生シェアハウス

住む人が

増える

まちおこしの方法

群馬県の県庁所在地・前橋市。戦前は生糸の生産で栄え、戦後は「商業のまち・高崎」と並ぶ「文化のまち・前橋」として県の中心都市でありつづけてきた。だが、1982（昭和57）年の新幹線開通とともに高崎が新幹線停車駅となり、現在も再開発が進むのに比べると、その勢いは一歩後れをとっている感が否めない。

さらに、平成の大合併以降は、人口でも逆転され、現在も総人口は高崎に次ぐ第2位に甘んじている。いく筋もの商店街が連なる前橋の中心市街地・千代田町周辺では、最盛期の昭和50年前後に5000〜600軒あった店舗が、現在では「半減した」（大橋慶人・前橋中央通り商店街振興組理事長）という。

もちろん、ただ手をこまねいていたわけではない。中央通り商店街でもさまざまなイベントを企画して、人を呼び戻す努力をしてきた。しかし「イベントでまちおこしはできない、というのが私の実感です。どれだけ多くの人が集まっても、イベントの翌日は元どおりの、閑古鳥が鳴く商店街に戻ってしまう。もっと日常的にまちに人がいるような仕組みの必要性を感じていました。一番いいのは、まちに住む人が増えることです」（大橋さん）。

この大橋さんの想いが、じつは「シエアフラット馬場川」（以下、「シエアフラット」）の誕生に、深くかかわっている。

三者

三様の

想い

「シエアフラット」は、1969年竣工の雑居ビルを改修・用途変更して、学生専用のシエアハウスにしたものである。深くかわったのが大橋さんのほか、事業プランナーの小林義明さん、2016年3月まで前橋工科大学で教鞭をとっていた建築家・石田敏明さんの3人だ。

小林さんは、長く前橋に住み暮らすなかで、中心地の衰退を憂い、2000年代初めに高齢者住居と医療施設を融合させた「終身賃貸マンション」を企画するなど、前橋の活性化に取り組んできた。終身賃貸マンションは、不便な暮らしを強いられる郊外の高齢者を中心部に呼び戻すための環境づくりであり、今回のシエアハウスのアイデアも、市街地の人口を増やす試みの一環として小林さんが発案したものだという。

石田さんは、97年に着任してから20年近く前橋を見ていたが、「学生を連れて商店街を歩くと『今日は何かあるんですか』とまちの人にたずねられる」。それだけまちなかで若者を見ることが少ないという状況に違和感を覚えていた。学生の70%が他県から来ている前橋工大では、「大学近くのアパートを借りた学生は4年なり6年なり大学に通っても、ほとんど中心市街地に出ることはない」状況もあった。調査したところ、前橋市内の大学・専門学校に通う学生が、12000人はいえることもわかった。まちなかに学生が住む場所をつくるシエアハウ

スの試みは、興味をひかれるものであり、必要性を感じるものだったようだ。

商店主が

出資して

資金を調達

計画が最初に公にされたのは、2012年の群馬県商店街活性化コンペ。ここで提案が優秀賞を受賞する。だが、受賞の喜びとともに「ほかは一過性のイベントの提案ばかり。長期的視点をもつこの案が、なぜ最優秀ではないのか」という疑問も抱いたという。結論としては「審査員には、実現可能性が低いと判断されたのだろう」（石田さん）。当時はまだ、事業化に向けての具体的な詰めは進んでいなかった。どんなにすぐれた提案でも、事業として成立しなければ単なるアイデアで終わる。ここでポイントとなったのが有限責任事業組合（Limited Liability Partnership / LLP）という考え方である。

LLPの特徴として挙げられるのは、有限責任、自由な内部自治、構成員課税の適用を受けることの3点。

出資を募る際、出資額に応じた有限責任であることは、出資のハードルを低くする。自由な内部自治は、利益を優先的に借入金の返済にあてるなど、柔軟な運営を可能とする。課税については、法人格のないLLPに法人税は課されず、配当があった際に、その配当に対して課税されるだけなので、組合として負担が少ない。

「図書館に行つてLLPを勉強した」と笑う小林さんの奔走により、資金を集める具



写真右／2階サロン。学生たちの共有スペースで、食事や談話に利用。大開口からは中央通り商店街を見渡せる。窓ガラスの一部は、新しくした。左／3階ランドリーコーナー。左に物干し場、右に洗面台とトイレ。

体的な体制が出来上がり、事業組合が動き出したが、お金の話は簡単ではない。数千万単位のお金を準備するためには、広く出資を募る一方で、大口の融資も必要となる。だがメガバンクはもちろん、頼りの地方銀行も簡単には融資してくれない。唯一、日本政策金融公庫だけは支援を快諾し応援してくれたが、それでも足りない分は、結局大橋さんたち店主が個人で借財を負うかたちで4500万円の資金が準備された。

「やわらかい 関係性」 をつくる

「シェアフラット」は、2、3階に計11室貸し部屋をもつ構成(38ページ平面図参照)となっているが、ここに至る過程もまた、簡単ではなかった。

空き家になって久しい建物に手を入れようとすると、一般的な改修とは違った事態に遭遇する。割れた窓から多数のハトが入り込んでいた最上階の糞の除去・清掃、以前の借主が退去時に置き去りにした什器や設備の撤去など、工事のスタートまでに多くの資金と労力を必要とした。加えて、躯体のひどいジャンカや防火区画の不備など「ありえない施工」(石田さん)状態の補修や耐震補強など、性能適法化にも多くの予算が割かれ、結果的に「仕方なく」既存のまま再利用された部分は少なくない。

こうした状況下、設計時に石田さんが腐

心したのが「やわらかい関係性」をつくること。

「アパートやマンションのように、隣に誰が住んでいるのかもわからない関係ではなく、すぐ横にも知人が暮らしていることを感じられるようにしたかった」

それが形になっているのが、「やわらかい間仕切り」だ。布のあいだにウレタンチップを充填した間仕切り壁は、押せば反対側に膨らむ。遮音シートが入っているとはいえ、隣室の気配はかなり伝わる。「朝、隣の友人が、『授業に間に合わないぞ』と壁を叩いて起こしてあげるような関係があってもいいのでは」という石田さんの仕込みである。

「シェアフラット」 から 始まった

入居開始から3年半がたち、運営自体はおおむね好調だ。大橋さんは、自らの店の経営を続けながら、学生たちの里親となつて積極的に「シェアフラット」にかかわりつつける。携帯アプリのLINEを駆使して、学生たちとやりとりする大橋さんは、実質的に管理人の役も果たしている。夜、建物に遅くまであかりが灯っている光景は、空き家だった頃と比べるとなく、人の息吹を感じさせよう。入居した学生は、イベントや清掃などの地域活動に月10時間以上参加すると、前橋市の家賃補助が受けら

れるため、学生と地域住民の触れあいも増えている。では、そのほか周辺の動きはどうか。

若手経営者が集まって民間主導のまちづくりの機運が高まっている。行政は、「シェアフラット」の成功事例から、3件の住宅転用促進事業や、現在進行中の2件の優良建築物整備事業など、より積極的に市街地活性化に取り組むようになり、一部では大手デベロッパーが参入する動きもある。さらに、全国展開する某有名企業の創業者が、出身地の前橋を応援したいと、商店街の空き店舗を買い取り、若手デザイナーと組んで飲食店などを開業する予定もあるという。「シェアフラット」は、こうしたまちおこしの一部ではあるが、ひとつの起爆剤となつて波及しつつあるのは間違いない。近くでシェアハウスが3軒も増えたのは、明らかに「シェアフラット」の影響だろう。

しかし、住民の高齢化とともに増加してきた空き家問題が劇的に改善したわけではない。プームに乗ってシェアハウスをつくっても、大橋さんのように本気で運営にかかわる人材がいなければ、やがて荒廃する恐れもある。

「シェアフラット」は、目先の利潤にとらわれない持続的な試みとして蒔かれた種だ。住みやすいまち、暮らしやすい地域だと多くの人が魅力を感じるようになれば、テコ入れ策がなくても人は集まってくるだろう。そうなったとき、初めて「シェアフラット」の果たした役割が見えてくる。真価が問われるのはこれからである。

シェアフラット馬場川



Before

1969年竣工の雑居ビルで、改修前は廃墟化していた。写真は貸事務所として利用されていた3階部分。



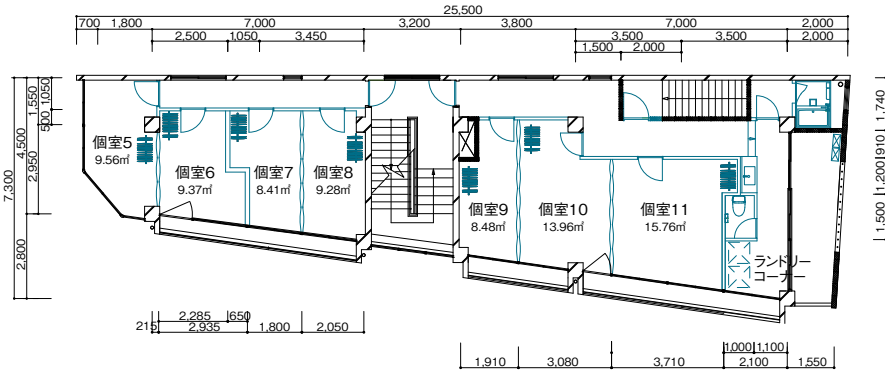
提供/石田敏明

改修後は学生の居住スペース(写真は「個室11」)。右手の青い布製の壁が、隣室とのあいだに設けた「やわらかい間仕切り」。

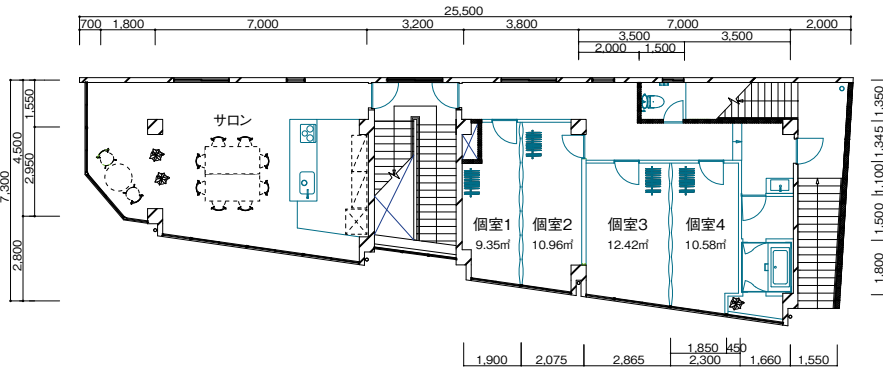
平面図

0 2 4m

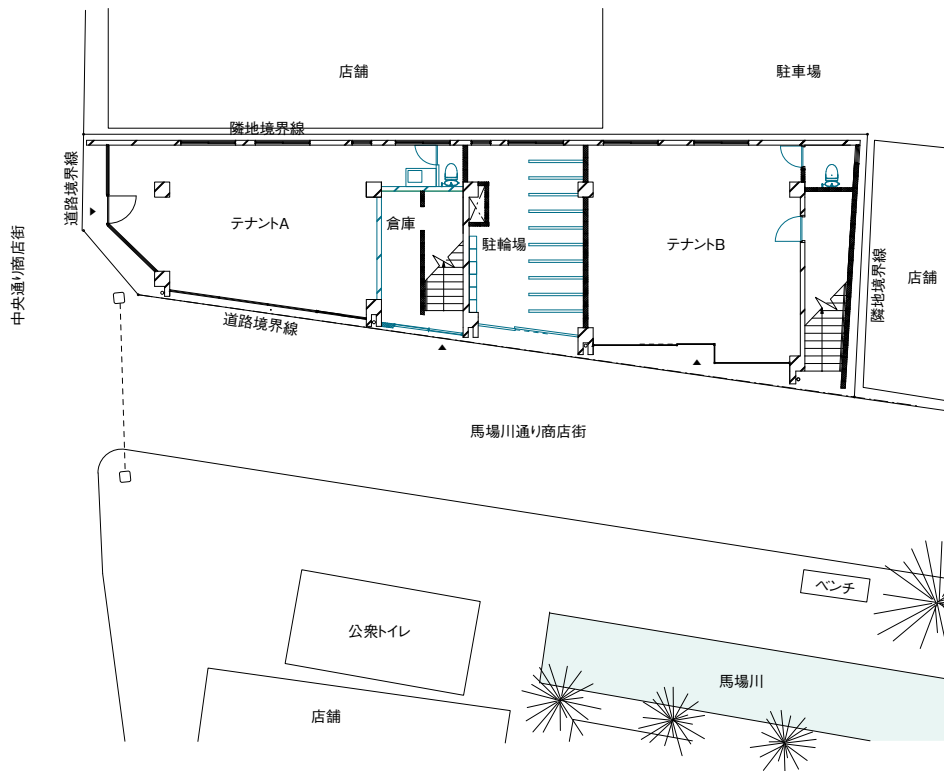
1/250



3F



2F



1F

「シェアフラット 馬場川」

建築概要

所在地	群馬県前橋市千代田町2-12-1
主要用途	寄宿舎、店舗
建主	前橋まちなか 居住有限責任事業組合
設計	石田敏明建築設計事務所、 タノデザインラボ
構造	前橋工科大学構造信頼性研究室
施工	伊佐建設、内部塗装は 有志によるワークショップ
階数	地上3階
敷地面積	170.37㎡
建築面積	153.13㎡
延床面積	443.21㎡
設計期間	2012年7月～2013年10月
工事期間	2013年11月～2014年2月

おもな外部仕上げ

屋根	既存(一部撤去)
外壁	アクリリシロローラー仕上げ
開口部	既存アルミサッシ

おもな内部仕上げ(個室)

床	既存仕上げ材撤去、 一部モルタルによる 不陸調整のうえ、 ニードルパンチによる カーペット敷き込み
壁	遮音シートのうえ、 ウレタンチップ下地布張り、 一部既存壁仕上げ撤去のうえ、 EPローラー仕上げ(セルフビルド)
天井	既存天井材撤去のうえ、 EPローラー仕上げ(セルフビルド)

賃貸条件

住戸数	11室
住戸専用面積	8.48～15.76㎡
賃料	26,000～37,000円 (別途、居住2年間前橋市による 家賃補助7,000円/月あり)



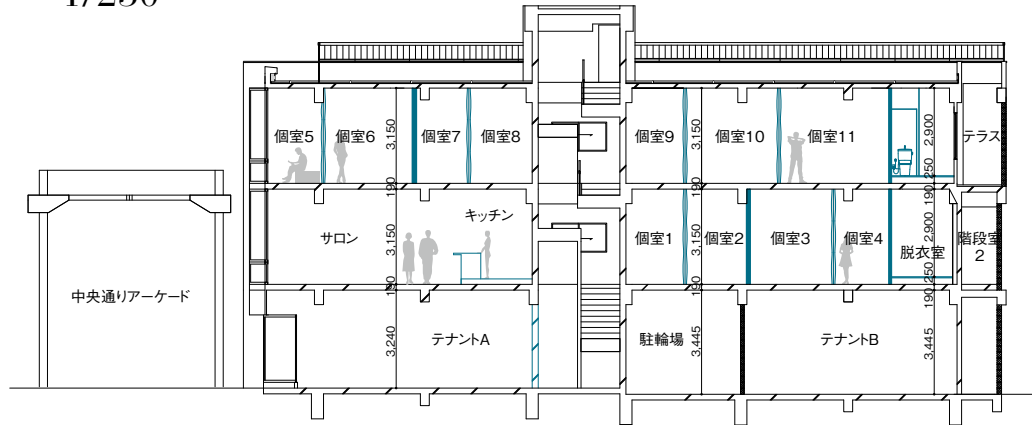
石田敏明
Ishida Toshiaki

いしだ・としあき/1950年広島県福山市生まれ。73年広島工業大学卒業。73～81年伊東豊雄建築設計事務所。82年石田敏明建築設計事務所設立。97～2016年前橋工科大学教授。現在、同大学名誉教授。16年より神奈川大学教授。おもな作品=「NOSハウス」(96)、「綱島の家」(92)、「印西牧ノ原消防分署」(01)。

断面図

0 2 4m

1/250



写真右/学生は地域イベントを手伝う。中/内壁は学生たちが自ら塗装。左/シェアフラットの屋上で行われたアートイベント。

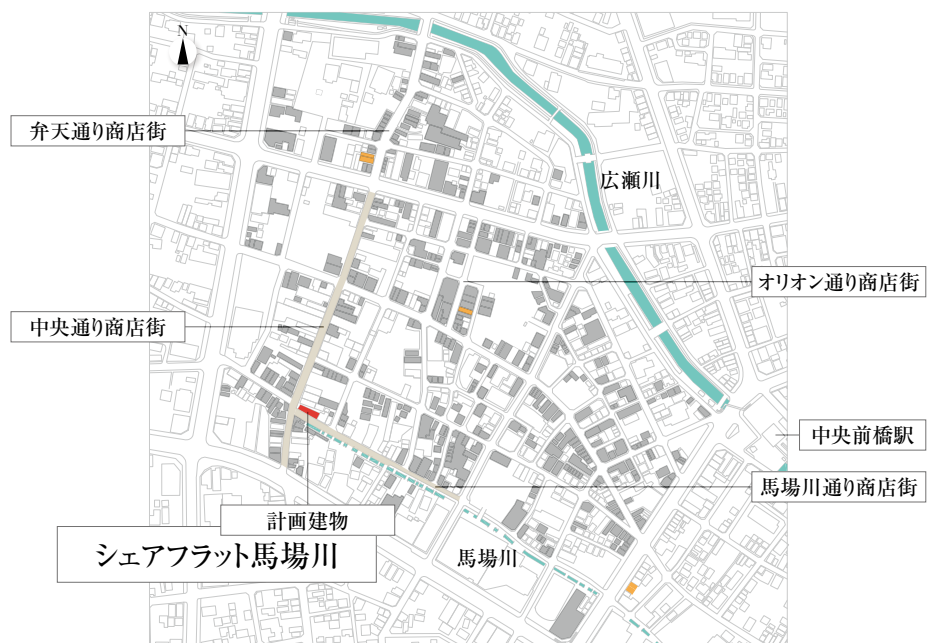
提供/石田敏明

中央通り商店街周辺の空き家調査

■ 空き家・一部空き家 ■ その他のシェアハウス

0 100 200m

1/10,000



2012年に前橋工科大学石田敏明研究室(当時)で調査を実施。その後、「シェアフラット」の計画による影響で、計4棟の空き家がシェアハウスとしてよみがえった。

安藤忠雄、

特別
記事



Interview with Ando Tadao

1941年大阪府生まれ。
69年安藤忠雄建築研究所設立。
97年より2003年まで東京大学教授、
現在東京大学名誉教授。
「住吉の長屋」(76)で日本建築学会賞、
以降国内外で受賞多数。
85年よりTOTOギャラリー・間の
運営委員、2010年より
特別顧問を務める。

読書が 人生の時を 刻む

——本についてですが、安藤さんがこれはという本に巡りあったのはいつのことでしたか。

安藤忠雄 20歳のとき、当時の神戸新聞の社長に声をかけられ、どんな本を読んでいるかと聞かれて、建築関連の本の名を答えるかと思われて、建築家として奥行きを深めたいなら、文学にも触れておけと。吉川英治の『宮本武蔵』を繰り返し3度読めと薦められた。結局は1回読んだだけだったが、おもしろく、「自立した人間として生きていくには覚悟がいる」とことを教えられた。

——同じ本を繰り返し読む機会はなかなかありませんが、確かに10年、20年たつて再読すると得るところが多いことはありますね。

安藤 繰り返し読んでみようと思った本は何冊かある。そのたびに新しいのを買って求めるので、気が付くと同じ本が書棚に4冊並んでいたりする。和辻哲郎の『古寺巡礼』や『風土』はそのひとつで、建築に対する考え方をそこから繰り返し返しくみとってきた。もし私にとってのバイブルがあるとすれば、これかもしれない。

——2009年、14年と大病を患われ、快復されたからは本を読む時間が増えたそうですね。

安藤氏についての本



Photo by O.G.D.C.

安藤 医者から昼食後に1時間しつかり休めと言われていたので、そのときにいろんな本を読むようになった。大江健三郎の小説は安部公房などとともに、若い頃、友人の影響で読んだが、十分には理解できなかった。それが最近、『小説の方法』や『大江健三郎作家自身を語る』など、彼が人生を振り返ったり、小説の書き方を記したりしている本をゆつくり読むと、明快でわかりやすく、小説も前よりは親しみをもって読めるようになった。若い頃、よくわからないなりに楽しんでいたのがよかったのだろう。

——印刷メディアは携帯やパソコンに駆逐されて久しく、若い人たちはすっかり本を読まなくなっていますが、読書体験は何物にも代えがたいですよ。

安藤 大江は子どもの頃に、マーク・トウェインの『トム・ソーヤの冒険』や『ハックルベリー・フィンの冒険』を繰り返し読み、少し大きくなつたら原書で読み、それが自分の文学の原点になったと言っている。誰にとつても若い頃の読書体験は重要と思う。私の事務所には今アルバイトの学生が8人いるけれど、彼らには仕事の合間の1時間、本を読むように伝えていく。本を読む習慣を身に付けて、それぞれ自分にとってのバイブルを探してほしいと思っている。本も新聞も読まないで20代を過ごしてしまうと、あの頃の自分はどうかであったかという基準をもたなくなってしまう。

安藤忠雄氏の足跡はひと言では語りつくせない。

数多くのプロジェクトが建築家としての器をますます大きくしているが、それだけではなく、挑戦を続けた生き方や、そこから生まれる人生訓のような言葉にひかれている人も多い。その多様な側面を示しているかのように、安藤氏についての本は、これまでたくさん発行されてきたが、その切り口はさまざまだった。本が、人となりを表している。そうした本への想いを、安藤さんに聞いた。また国立新美術館にて、安藤忠雄氏の軌跡を振り返る展覧会が催されている(2017年12月18日まで)。その予習や復習のためにも「安藤忠雄を知る本」というリストを、あわせて掲載する。

本を語る。

——確かにそうした歴史感覚のようなものは、携帯やパソコンに頼っている限りは身に付きませんね。

安藤 パリに行くといつも、サン・ジェルマン・デ・プレのカフェ・ド・フロールの裏にあるホテル「アングルテール」に泊まる。ヘミングウェイが定宿にしていた小さなホテルだけれど、そこに泊まるとかつて読んだ『老人と海』や『武器よさらば』の一節とか、1968年の五月革命の最中にパリにいた体験がよみがえってきたりする。本がきっかけになって、時の経過に思いいたり、記憶が想起される。

本の力は弱まってる いない

——それにしても、本が売れなくなっているなかであって、安藤さんが関係する本は次々に出版されています。

安藤 87年9月、二川幸夫さんのGAギヤラリーで私の作品

の展覧会が開催され、それに合わせて出版された『GA ARCHITECT 8 TADAO ANDO 1972-1987』(A.D.A. EDITA Tokyo)は、1週間で1万冊という空前の売れ行きだった。でも今ではその半分もいかないでしょう。建築に対する関心や興味は確実に薄れてきているから。それでもOTTO出版の全5巻の作品集『安藤忠雄の建築0〜4』にしても、各巻平均1万5000〜2万冊売れていて、この種の本としては驚異的だと思うし、ほかの本にしてもそれなりに売れている。

——ここに用意したリスト(左記の「安藤忠雄を知る本」は国内で発行されたものですが、海外でそれと同等以上に本や雑誌の特集が発行されていますね。

安藤 今現在、フランス、ドイツ、アメリカほか、8冊ほどの出版が並行して進んでいる。この前、ポンピドーセンターで講演会をしたとき、TASCHENから発行された大判の作品集が置かれていたら、あつという間に200冊が売り切れてセンターの人が驚いていたけれど、ヨーロッパでは、こうした本がよく買われ、読まれる。

——それにしても本を1冊まとめるだけでも大変なことなのに、安藤さんは途切れることなく続けているのはただ感嘆するばかりです。

安藤 本の編集は、自分たちがやってきたことや考えをまとめるよい機会



本の編集は、
自分たちの考えをまとめる
よい機会になる

もつと 文化に 力を

になる。また建築に対する考え方を人に伝える場合、本に勝る手段はない。動画もネットも、表面的な広がりには得られるとしても、深さというか浸透力の強さに欠ける。実際、海外の人たちは総じて本を読んで、設計を依頼しようと思つてやってくる。隅から隅まで、じつにしっかりと読まれていて、びっくりするほど細かいところまで聞いてくるので驚かされる。そういう意味では、本の力は、本質的なところでは弱まっていない。

——海外からの依頼者の熱意はすごいようですね。

安藤 フランスのピノールさんというグッチャクリステイーズを所有するフランスの富豪がいて、パリのセーヌ河に浮かぶセガイン島に現代美術館をつくらうとした。私が設計の依頼を受け、着工寸前までいったが紆余曲折があつて中止となつた。すると彼は、ヴェネツィアに場所を移し、カナル・グランデにアートネットワークをつくるという野心的な構想を抱いて、再び私に依頼があり、これまで3つの美術館の設計をしている。さらについ最近、パリの中心部にある「ブルス・ドウ・コムルス(穀物取引所)」を美術館にリニューアルする計画を打ち上げ、またかわれることになつた。すでに工事は始まつていて、2019年春に開館する。不撓不屈というか、その気迫にはいつも大きな刺激を受けている。

——それに比べると先ほども言われていたように、国内の状況は建築に対する関心や興味が薄れていると実感されますか。

安藤 80年代後半までは、施主、施工者、そして一般の人々、みんな建築に対する夢があつたし、建築を志す人々にはそれに賭けてみようという情熱がみなぎっていた。今や建築はすっかり商売の対象になつてしまつて、夢や情熱が入り込む隙間がなくなっているのではないか。

——学生も元気がありませんか。

安藤 大学2年生までは元気だ。「ブルス・ドウ・コムルス」の模型は2年生6人が数カ月かけてつくりあげた。根気のある作業だが、みんな全然めげないでつくりつづけていた。情熱があり、闘志もある。でも3年生になつて社会に出ることを考えはじめると、就活で頭がいっぱいになつて急におとなしくなつてしまふ。学生だけを責めるわけにはいかない。社会全体が保守的になつて、学生から活力や勇気を奪つてしまつていく。

国立新美術館開館10周年

安藤忠雄展 —挑戦—

展覧会情報

会期/2017年9月27日(水)~12月18日(月)

開館時間/10:00~18:00

※金曜日・土曜日は20:00まで

※9月30日(土)、10月1日(日)は22:00まで

※入場は閉館の30分前まで

休館日/毎週火曜日

会場/国立新美術館

企画展示室1E+野外展示場

(東京都港区六本木7-22-2)

展覧会ホームページ/

<http://www.tadao-ando.com/exhibition2017/>

TEL/03-5777-8600(ハローダイヤル)

Information >>>

- 『安藤忠雄 野獣の肖像』(古山正雄著、新潮社、2016)
- 『GA ARCHITECT TADA0 ANDO 2008-2015』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2015)
- 『安藤忠雄の建築 4』(TOTO出版、2015)
- 『TADA0 ANDO Insight guide 安藤忠雄とその記憶』(講談社ビーシー、2013)
- 『安藤忠雄 最新プロジェクト2』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2013)
- 『GA ARCHITECT TADA0 ANDO 2001-2007』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2012)
- 『安藤忠雄 スリランカの住宅 モンテレイの住宅』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2012)
- 『安藤忠雄 仕事をつくる 私の履歴書』(日本経済新聞出版社、2012)
- 『安藤忠雄 都市と自然』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2011)
- 『安藤忠雄 住宅』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2011)
- 『安藤忠雄の建築 0 Process and Idea』(TOTO出版、2010)
- 『安藤忠雄 最新プロジェクト』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2009)
- 『建築家 安藤忠雄』(新潮社、2008)
- 『安藤忠雄の建築 3 Inside Japan』(TOTO出版、2008)
- 『安藤忠雄の建築 2 Outside Japan』(TOTO出版、2008)
- 『TADA0 ANDO DETAILS 4』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2007)
- 『安藤忠雄 ヒューマンスペースの幾何学』(古山正雄著、TASCHEN、2007)
- 『悪戦苦闘 2006年の現場』(安藤忠雄建築展実行委員会、2007)
- 『安藤忠雄の建築 1 Houses & Housing』(TOTO出版、2007)
- 『安藤忠雄 建築手法』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2005)
- 『ル・コルビュジェの勇氣ある住宅』(新潮社、2004)
- 『TADA0 ANDO DETAILS 3』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2003)
- 『安藤忠雄建築展2003 再生—環境と建築』(デルファイ研究所、2003)
- 『建築に夢をみた』(日本放送出版協会、2002)
- 『連戦連敗』(東京大学出版会、2001)
- 『安藤忠雄の美術館・博物館』(美術出版社、2001)
- 『GA ARCHITECT 16 TADA0 ANDO 1994-2000』(A.D.A. EDITA Tokyo, 2000)
- 『光の教会 安藤忠雄の現場』(平松剛著、建築資料研究社、2000)
- 『淡路夢舞台 千年庭園の記録』(新建築社、2000)
- 『建築を語る』(東京大学出版会、1999)
- 『建築家たちの20代』(東京大学工学部建築学科安藤忠雄研究室編、TOTO出版、1999)
- 『TADA0 ANDO DETAILS 2』(A.D.A. EDITA Tokyo, 1997)
- 『アンドウ 安藤忠雄・建築家の発想と仕事』(松葉一清著、講談社、1996)
- 『家』(住まいの図書館出版局、1996)
- 『安藤忠雄の夢構想 震災復興と大阪湾ベイエリアプロジェクト』(朝日新聞社、1995)
- 『GA DOCUMENT EXTRA01 TADA0 ANDO』(A.D.A. EDITA Tokyo, 1995)
- 『壁の探究 安藤忠雄論』(古山正雄著、鹿島出版会、1994)
- 『GA71 安藤忠雄 東邸、小篠邸、城戸崎邸』(A.D.A. EDITA Tokyo, 1994)
- 『現代の建築家 安藤忠雄 3 Unbuilt Projects』(SD編集部編、鹿島出版会、1993)
- 『JA Library 3 安藤忠雄 六甲の集合住宅I, II, III』(新建築社、1993)
- 『GA ARCHITECT 12 TADA0 ANDO 1988-1993』(A.D.A. EDITA Tokyo, 1993)
- 『安藤忠雄建築展 新たなる地平に向けて 人間と自然と建築』(安藤忠雄建築展実行委員会、1992)
- 『安藤忠雄の都市彷徨』(マガジンハウス、1992)
- 『TADA0 ANDO DETAILS 1』(A.D.A. EDITA Tokyo, 1991)
- 『JA 1991-1 TADA0 ANDO』(新建築社、1991)
- 『現代の建築家 安藤忠雄 2 1981-1989』(SD編集部編、鹿島出版会、1990)
- 『旅 インド・トルコ・沖縄』(住まいの図書館出版局、1989)
- 『GA ARCHITECT 8 TADA0 ANDO 1972-1987』(A.D.A. EDITA Tokyo, 1987)
- 『日本の建築家 6 安藤忠雄 挑発する箱』(丸善、1986)
- 『世界建築設計図集 30 小篠邸』(同朋舎出版、1984)
- 『安藤忠雄のディテール 原図集 六甲の集合住宅・住吉の長屋』(彰国社、1984)
- 『現代の建築家 安藤忠雄』(SD編集部編、鹿島出版会、1982)

安藤忠雄を知る本



——即効とはいわずとも処方箋はあるのでしょうか。
 安藤 ともかく建築は無条件におもしろいと思えるようでないといけない。ヴェネツィアの施工現場では、1日の仕事を終えた職人たちが、みんなワインを飲んでくつろいでいる。とても楽しそう。日本はきちんとしているけれど、何かつまらなそうにしている。例外はあって、「住吉の長屋」(76)は、まこと建設という小さな会社が施工したのだが、工業高校を出て7、8年経験を積んだその社員はしっかりしていて、つくることに喜びを見出している。76年の「住吉の長屋」に始まって、毎年平均2戸ほど施工しているから、もう80戸くらいになるのではないか。

それと大局的にいえば、国も企業もつと文化に資金を投じないといけない。歴史的建造物はもちろん、現代建築の保全も大幅に進めないといけない。65年、パリ郊外のル・コルビュジェ設計「サヴォア邸」(31)を初めて見に行ったときには廃墟のようだったけれど、その後アンドレ・マルローが文化相になったとき、保全にのり出してきれいに整備された。フランスの海外からの観光客は8000万人、日本は2000万人というが、その差は文化への理解度と投資に大きく起因しているのではないか。観光立国を標榜するなら日本の国は今一度文化の重要性について考え直すべきだ。若い人も、本をしっかりと読むなどして、文化を大切にしていってほしい。

TWILIGHT EXPRESS 瑞風

西日本

ツインルームは10^m²

初めての「手前味噌」をお許しいただきたい。

6月に運行を始めたJR西日本の寝台列車「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」(以下、瑞風)のプロジェクトにかかわってきた。瑞風は風光明媚な山陰・山陽を10両編成で1泊か2泊の5コースでめぐる。

船や自動車と同様に「敷地」というコンテクストをもたない。軌道の幅は1067mm。動力、重量、構造、不燃、振動など建築とはかなり異なる。しかしコンセプトは「美しい日本をホテルが走る」として上質なホテルのようなインテリアを求めた。

デッキのある展望車、ダイニングカー、ラウンジカーなどを備え、ゲストルームはツイン、シングル、スイートルーム16室。

乗客の利用層を考えると、新しいのになんとなくつかしくノスタルジアを覚えるインテリアデザインとして、昭和初期に一世を風靡した「アールデコ」を基調とした。それは直線的、幾何学的な白黒模様や市松柄の床パターン、グリルなどの意匠、ファブリック、テールブウエア、家具や備品、サインにもおよぶ。色はモノトーン、木や石など種類を抑えながらも強いコントラストを多用し、アールデコにこだわった。

大きいフィックス窓と、風が入る小さな窓もある。バスルームはシャワーとし、1両1室のスイートルームだけ猫足のバススタブを備えている。

ドアは中国地方5県の特産木材。壁の目地には京都の組紐をあつらえて叩き込んだ。電灯点滅のスイッチはなつつかしいトグルスイッチ(*1)を採用して、プレートは京都の鋳職人の手になる彫金。当代の作家や職人が快く制作してくださったこともうれしい。

そのほか西日本各地の伝統工芸品や茶道具の名品、版画や彫刻、ヨーロッパのアンティークなどを集め各所にちりばめた。車内各所のアートなどを見歩いて「もうひとつの旅」を楽しんでいただきたいと考えている。

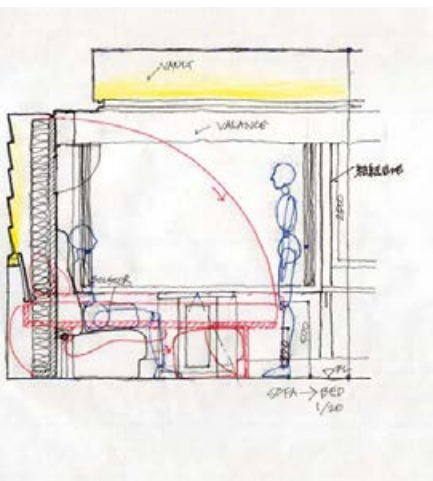
19世紀末、ジョルジュ・ナゲルマケールス(*2)という男がいた。

国際寝台車会社「ワゴン・リ」をつくり、パリからユーラシア大陸各地に寝台列車を走らせた。オリエント・エクスプレスである。設備も十分とはいえないながら、そこに何日も乗り込んでおいしい料理をいただくことが旅の究極の姿だと世に知らしめた。その夢が途絶えることなく続いている。

今やどこでも「日帰り」ができるようになってしまったわが国の観光事業はとても難しいものがあるのだが、総人口の27%強が65歳以上という時代になって寝台列車をゆつくりと利用する古くも新しい旅の姿が現れた。

この旅はいつたいたいなんなのだろうか。それをなんと呼ぶのだろうか。

*1/トグルスイッチ…つまみ状の操作レバーを倒すことで電気回路を切り替える構造のスイッチ。
*2/Georges Nagelmackers(1845~1905)…ベルギー人実業家で国際寝台車会社の創業者。1883年頃からパリを起点として、コートダジュール、リスボン、サンクトペテルブルク、シベリアなどにオリエント・エクスプレスを運行させた。



ベッドは壁に収納される。

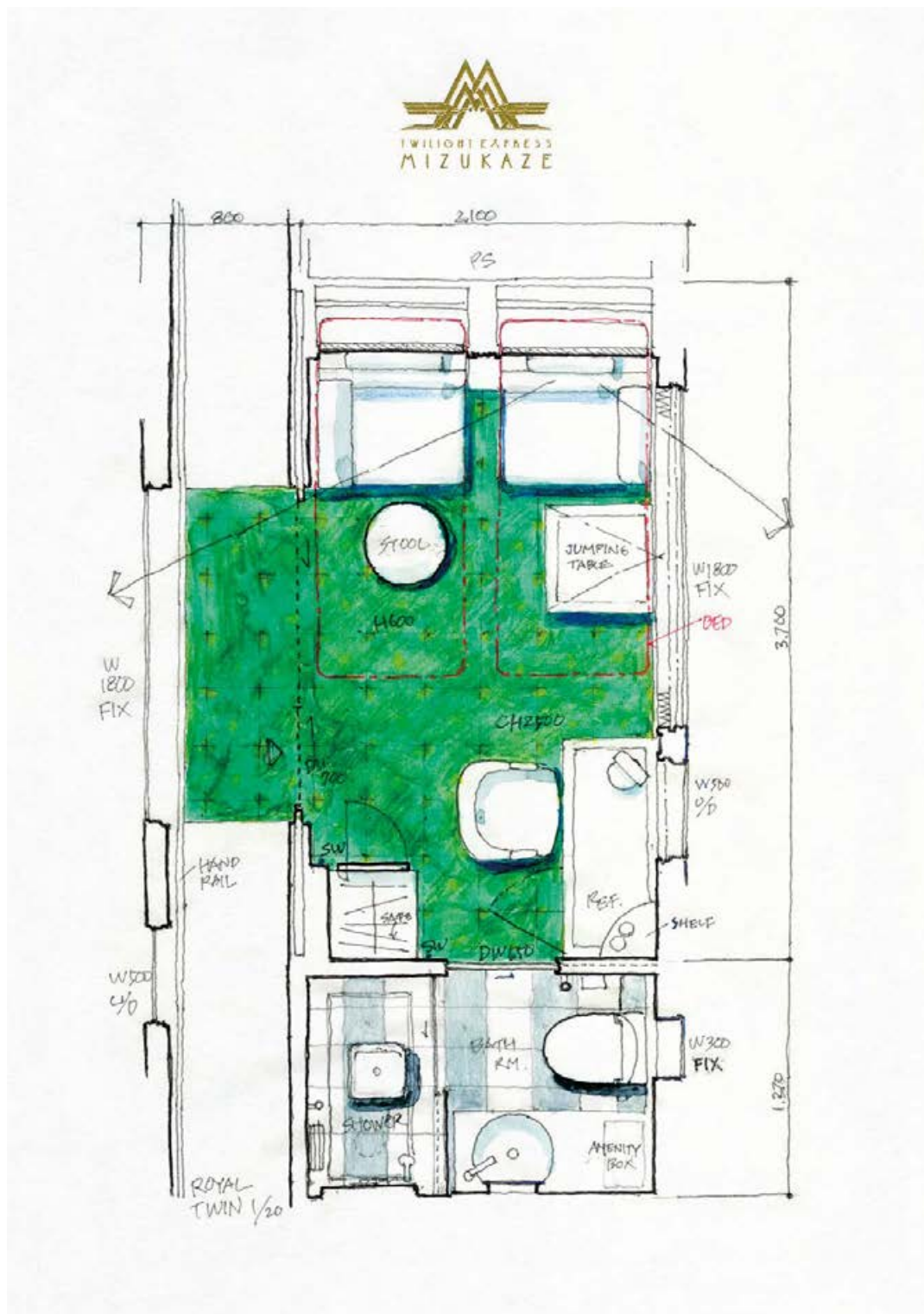


TWILIGHT EXPRESS 瑞風のポスター原画。

うら・かずや/建築家・インテリアデザイナー。1947年北海道生まれ。70年東京藝術大学美術学部工芸科卒業。72年同大学大学院修士課程修了。同年日建設計入社。99/2012年日建スペースデザイン代表取締役。現在、浦一也デザイン研究室主宰。著書に「旅はゲストルーム」(東京書籍・光文社)、「測って描く旅」(彰国社)、「旅はゲストルームII」(光文社)がある。



Text & Sketch by Ura Kazuya



ドアと可動壁を開けると
廊下側の窓からの
眺望も得られる。



アールデコにも通じる
青海波(せいがいば)模様の
スイッチプレート。

事業主/JR西日本

主要用途/寝台列車

設計・監理/JR西日本、浦一也デザイン研究室、
エイアンドエフ、日建スペースデザイン

URL/twilightexpress-mizukaze.jp/

TWILIGHT EXPRESS 瑞風



大
ガ
ラ
ス
の
あ
る
白
い
箱

Atelier of Migishi

三岸アトリエ 設計／山脇 巖

Yamawaki Iwao × Fujimori Terunobu



1

2階からアトリエ
を見る。アトリエ
室内の主役は鉄製
まわり階段。

現代 住宅 併走

第三十八回

連載

文／藤森照信

Text by Fujimori Terunobu
Photographs by Fugo Hitoshi

写真／普後 均



2
道路側からの全景。
手前の出っ張り
が
玄関。

こ

のシリーズで「三岸アトリエ」を取り上げていないことに気付き、何年かぶりで出かけた。

初めて訪れたときがいつなのかうろ覚えだが、まだ「三岸アトリエ」の存在が建築界では知られていない頃で、三岸好太郎、節子夫妻の長女の向坂陽子さんが迎えてくれた。今回は向坂陽子さんと娘の山本愛子さん。

よくぞ今日まで残ってきくれた。本来なら鉄筋コンクリートでつくるべきパウハウスのデザインを安価につくるといふ無理難題を敢行し、当然のように完成後、日本の夏暑く冬寒く、夏も冬も雨の多い気候にさらされて、壁も屋根も仕上げもディテールも満身創痍になりながら、

凜として立っている。表現におけるその強い持久力を可能にしたのは、外観においては大ガラス、室内においては鉄のまわり階段のふたつ。

遠目に眺めても中に入って確かめても、このふたつしか印象に残らない。このふたつさえあれば、そのほかはどうでもいい、そんな突き詰めたというか切り詰めた表現意欲がヒシヒシと伝わり、見る者の心を打つ。

まず、この小さなアトリエ建築の日本近代建築史上の位置について述べよう。

今日の世界の建築表現のベールを決めたのは1926年竣工の白い四角な箱に大ガラスをはめた「パウハウス校舎」で、日本の若手建築家はすぐ反応し、



3
アトリエの北側には採光窓。

何人もが入学したり見学に訪れたりしている。

パウハウスを源とするモダニズムの流れは、流れはじめ6年後、ル・コルビュジェが32年の「スイス学生会館」において袖を分かち、白い箱と大ガラスの表現に代えて、粗い打放し、自然石、曲面、曲線によるダイナミックな造形美を打ち出す。モダニズムは、こと日本への影響に限ると、パウハウス派とコルビュジェ派に分かれて、以後、流れてゆく。前者を白派、後者を赤派のモダニズムと私は呼んでいる。

赤白の二派に分かれて流れはじめた日本の初期モダニズムで注意してほしいのは木造の一件で、鉄骨造と鉄筋コンクリート

4



九間（このま）
三間四方の平面
の白いアトリエは、
戦後の磯崎新の
「ホワイトハウス」
に通ずる。

実

造という近代的材料によって生み出されたモダニズム表現を、日本の建築家は木造に置き換えるという世界にもまれな試みに取りかかり、これを今では「木造モダニズム」と呼ぶ。

作についていうなら、白派木造モダニズムが日本で初めて試みられたのは土浦亀城設計の「初代・土浦邸」で31年のこと。次は堀口捨己による33年の「岡田邸書斎」、そして34年の「三岸アトリエ」となる。

つまり、白派の木造モダニズムとしては「初代・土浦邸」「岡田邸書斎」と並んで最初期の実験作にして、かつ「初代・土浦邸」も「岡田邸書斎」もなき今、唯一の実例にちがいない。

アングル材をカク
カクと曲げてつく
った苦心のまわり
階段を見よ。ここ
までしてもやり
たかった。



1階の応接間。正面の黒い電熱暖炉は昔のまま。



7

右手のアトリエと左手の道路脇の堀のあいだの狭い通路を経て、玄関へ。



8

2階の書庫兼書齋。が好太郎亡き後に残された三岸節子一家6人の住まいとなる。

9

玄関に残るコートと帽子掛け。



〈三岸アトリエ〉以後の白派木造を歴史に確かめると「二代・土浦邸（35）」「山田邸」（35／山口文象設計）などと続くが、後者は取り壊され今はない。

パウハウス直系といつてかまわなない白派の木造モダニズム作品としては、現在、34年の〈三岸アトリエ〉と35年の二代・土浦邸の2棟しか存在しない。

2棟を比べると興味深い違いがある。

本来なら鉄筋コンクリートでつくるべき白い箱をなぜ木造に置き換えたかについて生前、土浦先生にたずねると、「普通の人の住宅を改良するには、日本の場合、木造でなければならぬ」と答えられた。

経

経済的にそう恵まれない市民のため、モダニズムで住宅を向上させようという社会改良的動きは、当時のヨーロッパのモダニストのあいだでは一致しており、27年にはワイゼンホッフ住宅展が開かれ、グロピウス、ミース、コルビュジエはじめ、20世紀建築をリードするメンバーが鉄筋コンクリート造の白い箱に大ガラスのデザインで参加している。当時、こうした改良住宅をまとめて建てる例をジードルングと呼んでいたが、土浦は、仲間の齋藤寅郎（建築家／朝日新聞記者）と組んで、二代自邸を含め4軒の木造の白派パウハウス住

宅を白金の長者丸に集中して建て、ミニ・ジードルング（ただし独立住宅）を実現している。

一方、〈三岸アトリエ〉はどうか。なぜ白い箱に大ガラスを木造でやったのか。

三岸好太郎と山脇巖は山脇が上野の美術学校（現東京藝術大学）時代に見知っていたが、具体的関係が始まったのは、山脇がパウハウスに留学して帰国した翌年の33年、朝日新聞が主催した「欧州新建築展」出展者／山脇巖、今井兼次、蔵田周忠、吉田鐵郎、山田守）に山脇がパウハウス建築を出したのを三岸が見に来て、声をかけたのがキッカケだった。なお、このヨーロッパのモダンな動きを伝える展覧会を企画し実行したのは齋藤寅郎である。土浦が招かれなかったのは、土浦の留学先がアメリカで欧州建築の新しい動向にはふさわしくなかったからか。

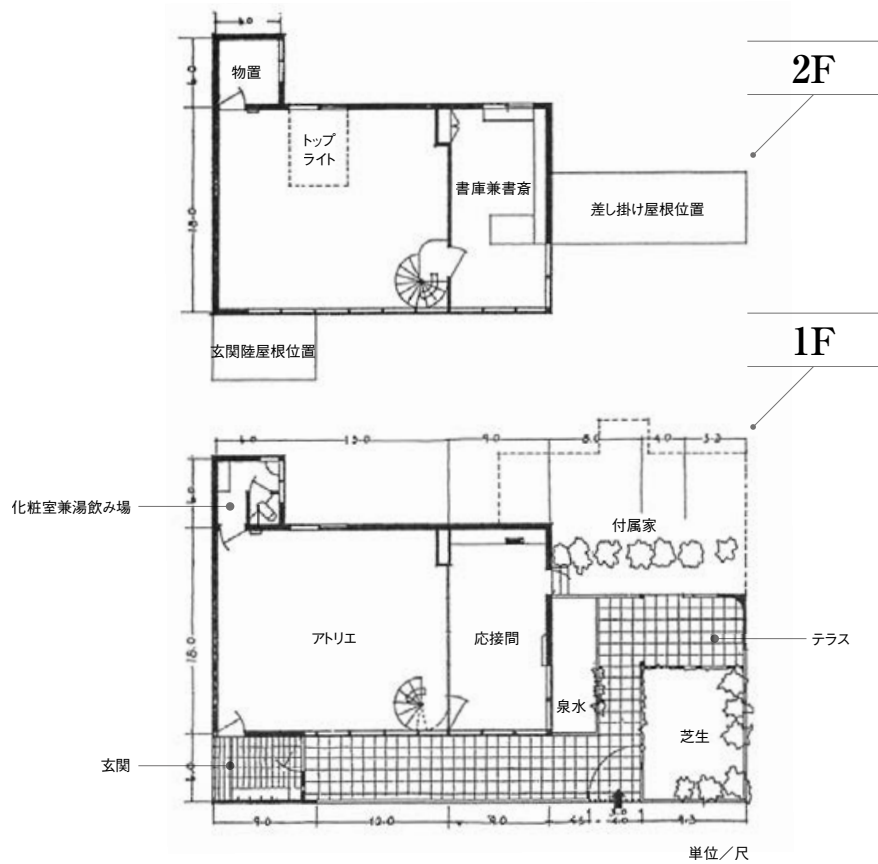
モ

ダニズムの前衛画家としてヨーロッパの先端デザインの動きを熟知していた三岸は、夢を託すべき建築家を探して展覧会に出かけ、旧知の山脇に出会い、ここからすべてがスタートする。そして設計を終始リードしたのは画家のほうだった。

経済的にはまるで恵まれない前衛画家が白いパウハウス建築のどこに魅せられていたんだらう。この謎を解くカギは建築そ

竣工時平面図

0 1 2m N
1/200



建築概要(竣工時)	
所在地	東京都中野区
主要用途	アトリエ
設計	山脇 巖
施工	永田建築事務所
延床面積	38.414坪
	(アトリエおよび
	2階書斎兼書庫: 22坪、
	テラス兼泉水: 9.289坪、
	住居部分: 7.125坪)
階数	2階
構造	木骨造
竣工	1934年
図面転載	『新建築』
	1935年11月号
URL	www.leia.biz/

山脇 巖



写真提供/島崎爽助

1898～1987年。長崎県生まれ。26年、東京美術学校(現東京藝術大学)を卒業し、30年、バウハウスに妻の道子とともに留学。32年、ナチスによるバウハウス閉館により帰国後、第1作として〈三岸アトリエ〉をつくる。戦前は、建築設計より万国博覧会(ニューヨーク)での写真モンタージュを駆使しての展示設計や和風建築で活躍している。駒場の立派な自邸にはまわり階段があり、戦後、来日したヴァルター・グロピウスを迎えている。おもな作品に「旧俳優座劇場」(54)、「桐朋学園大学音楽部」(64)、「日本大学芸術学部図書館棟」(71)など。

藤森照信



建築史家。建築家。東京大学名誉教授。東京都江戸東京博物館館長。専門は日本近現代建築史、自然建築デザイン。おもな受賞=『明治の東京計画』(岩波書店)で毎日出版文化賞、『建築探偵の冒険東京篇』(筑摩書房)で日本デザイン文化賞・サントリー学芸賞、建築作品「赤瀬川原平邸(ニラ・ハウス)」(1997)で日本芸術大賞、「熊本県立農業大学校学生寮」(2000)で日本建築学会作品賞。

もののなかに隠されている。回久しぶりに3回目の探訪をして、ふたつの異様に気付いた。ひとつは、アトリエに不可欠の大ガラス窓の付く方位で、本来なら北側に開けるべきをなんと南側に大きく開口している。そう広くはない建築の全景をとらえることのできる道は南側を走っており、画室としての実用性より建築の表現を優先した結果だった。

もうひとつは、道から玄関へのアプローチが異様で、道から敷地に入り、塀とアトリエのあいだの隙間を歩いてから玄関に入る。なぜこんな面倒な動線処理をしたのか。今は失われたこの特殊な動線を昔の図面と写真で追体験して、わかった。来客を大ガラスに直面させるためだった。加えてもうひとつ、大ガラスの

向こうに姿を見せるまわり階段にも直面してほしい。当時、まだ日本には2階分の高さの連続大ガラスも、その大ガラスがそのまま建物の角をまわる表現も、住宅は当然あらゆる種類のモダニズム建築で実現していなかった。

画家が求め、建築家が実現したのは、大ガラスであり、大ガラスがもたらす大量の光だった。そして充滿する光のなかにふさわしい建築的造りは鉄のまわり階段だけ。そのほかはどうでもよかったし、今、訪れてもそのように見える。初志貫徹。なお、三岸好太郎は、工事中、絵を売って建設資金を得るべく名古屋方面に出かけたまま、病没し、竣工を見ることはなかった。竣工後はアトリエを見下ろす狭い2階に、三岸節子は長女の陽子など家族6人で住みながら、絵を描きつづけていた。

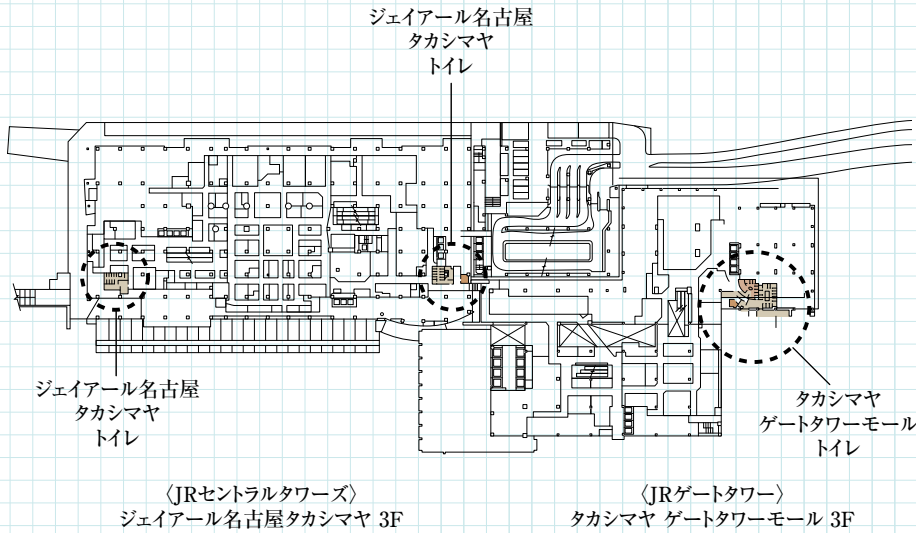
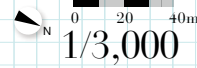


JRゲートタワー

JR GATE TOWER

JRセントラルタワーズ・JRゲートタワー 3F フロア平面図

↓フロアが連続している、JRセントラルタワーズ、JRゲートタワーのタカシマヤ。トイレの配置も連携している。



地盤面のように感じられる15階のスカイストリート。



提供/東海旅客鉄道



提供/東海旅客鉄道

→左の2棟はJRセントラルタワーズ。3棟のタワーの低層部は、15階まではフロアが連続している。



提供/東海旅客鉄道

←タカシマヤのにぎわいが感じられる、吹抜けの2階歩行通路。

名古屋駅をさらに活性化する 3本目のタワー

名古屋の中心を担う 新ビル

開発にあたった東海旅客鉄道（JR東海）の川合博英さんによれば、もともと敷地には旧駅ビル「名古屋ターミナルビル」があり、その北側にあった旧郵便局舎の建て替え計画がきっかけ

2017年4月、名古屋駅前の新名所「JRゲートタワー」が全面開業した。建物は地上46階建てで、オフィス、商業施設、ホテルなどが入居する複合ビル。名古屋駅といえば、よく知られているのが、左右非対称のツインタワーという珍しい形状の駅ビル「JRセントラルタワーズ（以下、タワーズ）」。18年前に完成し、名古屋のランドマークとして主役の座を守りつづけてきた。ゲートタワーはこのタワーズと低層部でつながっており、確認申請上は増築扱い。つまり、隣接するゲートタワーは3棟目に見えるが一体の位置付けだ。

男子トイレ



トイレ入口

←JRゲートタワー内の「タカシマヤゲートタワーモール」3階のトイレ入口。左から男子トイレ、女子トイレ、多機能トイレ。手前のスペースは「くつろぎガーデン」。

↑小便器側を見る。中央にアイランド型の手洗いカウンター。ベッセル式洗面器とカウンターの天板の素材と色を変えることでテリトリーがはっきりし、カウンターに水を垂らさない意識につながる。

→広めの個室。手すり、フィッティングボード、幼児用補助便座などの機器が備えられている。



外観について、大成建設の塩谷尚斉さんはこう語る。
「タワーズの2棟の白い外壁は名古屋の街で非常に際立っている。ゲートタワーはガラスを豊富に用いながらも縦のラインを付けることでシャープさを表現し、斜めから見ると白く見えるように工夫しました。タワーズとの一体感を出しつつ、見る方向によって様相が変わるところに新しさが表現できたのではないかと思います」
また、タワーズの構成で特徴的なのが、15階に「スカイストリート」という第2の地盤を設け、地上と15階をシャトルエレベーターで結んだ点。これにより、

だったという。名古屋ターミナルビルは1〜2階にバスターミナルがあり、このままでは将来商業施設として活用しづらい。かたや郵便局は駅とは別の敷地にあるため、駅の外へ出てアクセスする必要がある、改善の余地があった。「両者の敷地の1階にバスターミナルを集約し、2階に駅から郵便局まで直結した歩行者通路を貫通させれば、お互いの課題が解決できる。それで、協力して再開発を行う計画が進みました」と川合さん。



↓おむつ交換スペース。交換台とともに洗面台も備えられている。床や壁は落ち着いたカラー。

↑写真上/授乳スペース。扉で仕切られた個室になっている。中/女子トイレの入口脇に腰掛けがある。

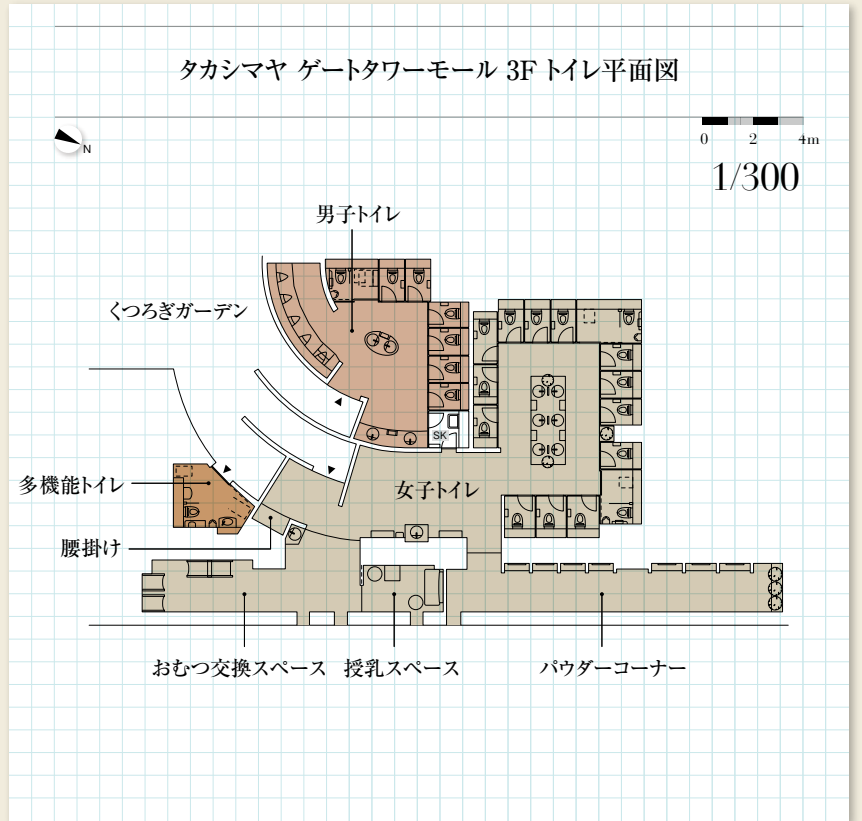


「名古屋マリオートアンシアホテル」と同じジェイエール東海

一度エレベータで15階に上がってから、さらに高層階に上がったり、階下の飲食店や百貨店に下りるといふ人の流れが生まれ

た。その結果、集客力が低下しがちな商業上層階にも客を呼び込むことに成功したのだ。スカイストリートをゲートタワーまで延長し、ゲートタワーにもシャトルエレベータを通すことで回遊性をもたせ、第2の地盤の強化を実現したと塩谷さん。

川合さんの話では、タワーズ建設当時は、各フロアで接続するような新しいビル計画はなかったそうだが、あらためて3つのタワーが立ち並ぶ外観を見ると、低層部の横ラインの連続性といい、バランスのとれた高層部の立ち姿といい、あたかも当初から3棟目の建設を想定したかのような整合性を感じられる。「縦と横の軸線によって、多様な用途を複合したビルであることをうまく表していただけだと思います」とは川合さんの弁。



多機能トイレ



女子トイレ



↓広めの個室。通常
の多機能トイレと同
じくらい広く、機器
が充実。

↑手洗いカウンター。
視界をさえぎらない
ように、洗面器前の
鏡がコンパクト。



→写真右/パウダー
コーナー。7つのス
ペースが用意されて
いる。トイレやおむ
つ交換のエリアが分
かれ、動線が重なら
ない配置。左/パウ
ダーコーナーなどを
示す入口のサイン。



今回取材したのは、「タカシマヤゲートタワーモール」3階のトイレと、「名古屋JRゲートタワーホテル」の2室。「タカシマヤゲートタワーモール」のトイレは、パブリックトイレ設計に特化した設計事務所として知られるゴンドラが手がけており、階ごとに売り場と呼び寄せた多彩なデザインが目を引くが、それとともに驚かされるのは圧倒的な広さだ。1カ所あたりの面積は200㎡以上もあり、とくに女性トイレは、ぐるりと見渡せて空気が確認しやすいブースコーナー、手を洗いたい人とゆっくり化粧直しをしたい人が使い分けられるパウダーコーナー、広い授乳スペース

既存ビルと連携した トイレの配置

ホテルズが運営している。タワーズと、今回竣工したゲートタワーのタカシマヤとホテルの違いについて、川合さんは「タワーズは百貨店もホテルも高いグレードの路線で揃えていますが、今回のゲートタワーでもっと若い方やファミリー層にも足を運んでいただけるよう幅広い要望に応えたいと考えました」と語る。同じ運営会社にしたのも、両者のバランスを図るといった補完のしやすさや、集客の相乗効果を考ええた結果だという。

スなど、いたれりつくせり。さらに、トイレの前には広々とした休憩コーナーも完備した。

川合さんによると、トイレの個数を多く確保するだけでなく、待ち列から個室の空きがすぐ見えるような配置を考えたり、たとえ少々並んでも極力ストレスを感じさせぬよう、タカシマヤ側と設計者のあいだで細かな議論が重ねられたとのこと。

ところで、ここまで広いトイレが生まれた背景には、タワーズとゲートタワーがお互いにバランスを図りながら開発され、かつ同じ運営会社であることで、トイレも一体的に計画できたおかげだと川合さんは言う。

「じつはゲートタワーの低層部はスカイストリートだけでなく、15階以下がタワーズと全フロアつながっています。そのうえで、もともと2カ所あったタワーズ

側のトイレを改修して、ゲートタワー側のお客さまにも使いやすくした。その結果、ゲートタワー側に新しくつくるトイレは1カ所に集約できたわけです」

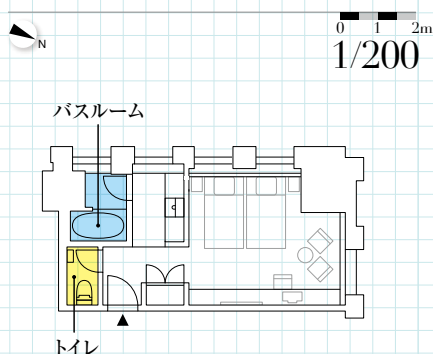
塩谷さんによると、地上75mの15階までの各階をすべてエキスパンションジョイント（構造的に分離するため、建物を緊結せずに接続するもの）でつなぐというのは技術的にも非常に難しいが、それを実現できたことが、2棟を一体的に使ううえでのポイントとなったそう。

都市の風景を満喫できる浴室

次に、ホテルでは、標準タイプの「スーペリアツイン」と角部屋の「デラックスコーナーツイン」を見学した。

タワーズ側に高いグレードの

デラックスコーナーツイン平面図



15階のホテルエントランス。JRゲートタワーのうち、15階と18～24階がホテルになっている。



提供/東海旅客鉄道

東海旅客鉄道
事業推進本部
担当部長(新ビル)

※2017年6月30日現在



Kawai Hirohide

川合博英

大成建設
設計本部建築設計第二部
設計室長

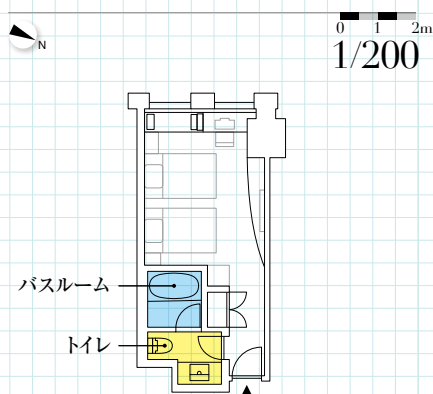
(文化・スポーツ・複合担当)



Shiotani Hisanari

塩谷尚斉

スーペリアツイン平面図



ホテルがあるため、こちらはビジネス客向けでもありつつ、観光客も満足して泊まれるグレイドを目指し、睡眠時の快適性や居心地を追求。遮光や遮音、調湿や脱臭にこだわり、ベッドの寝心地も最高級ホテルにひけをとらないという。

水まわりも充実している。トイレを独立させ、窓越しに都市の風景が満喫できる浴室を設けた角部屋はいうにおよばず、標準タイプの部屋も、隣接した洗面・トイレとの間仕切り壁をガラスにし、両者の内装材を揃えることで、ユニットバスとは思えない広がりを獲得。水まわりで天井高2400mmを確保できたのも快適性向上につながっています。コーナーツインのビューバスは外装開口部との取りあいで、防水性を損なわないため地震の際の変形追随性をもた

せたり、洗い場のあるツインも浴槽脇の排水口の清掃性に配慮して変更を加えるなど、細かな見直しを行いました。TOTOさんの柔軟な対応力には助けられましたね」と塩谷さん。

グループ会社が一丸となって、名古屋をリードしていきたい想いを結集したプロジェクトだと語る川合さん。おふたりの話をうかがっていると、ゲートタワーの開発は単なるビル1棟の建て替えや増築ではなく、街全体に影響をおよぼす事業であったことが伝わってくる。また、外観だけでなく、水まわりを含めた空間づくりのそここに、おもてなしの精神と、リニア中央新幹線開通に向け、名古屋駅全体の開発に想いを込めた姿勢が垣間見える。今後、名古屋からどんな水まわり空間が生まれるのか、楽しみになってきた。

JR ゲートタワー

JR GATE TOWER

建築概要

所在地	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番3号
事業主	東海旅客鉄道、ジェイアールセントラルビル
主要用途	オフィス・商業施設、ホテル、駐車場、バスターミナル
実施設計	大成建設、日建設計、ジェイアール東海コンサルタンツ
デザイン・アーキテクト	Kohn Pedersen Fox Associates PC
監理	日建設計、ジェイアール東海コンサルタンツ
施工	大成建設、鹿島建設
敷地面積	約97,000㎡(建築基準法) 約11,500㎡(特区提案の区域)
建築面積	約10,500㎡
延床面積	約260,000㎡
階数	地下6階、地上46階
高さ	約220m
構造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
ホテル客室数	350室
設計期間	2010年12月～2017年2月 (実施設計期間、開業後対応除く)
施工期間	2012年10月～2017年2月

おもなTOTO使用機器

タカシマヤ ゲートタワーモール 3階

●男子トイレ/女子トイレ
腰掛け大便器 UAXC3CL/R1
ウォシュレット TCF5533AUPR
ベッセル式洗面器 L700C
自動水石けん供給栓 TES132M
水栓 TENA12A
クリンドライ TYC420W
幼児用補助便座 TC51
●男子トイレ
自動洗浄小便器 UFS900JCS
ハイドロセラフロア
●多機能トイレ
腰掛け大便器 UAXC3CL/R1
リモコン便器洗浄 HE35J
ウォシュレット TCF4721
オストメイト対応トイレバック
クリンドライ TYC320W
折りたたみベッド EWC500S

名古屋JRゲートタワーホテル 18階

●デラックスコーナーツイン/スーパーアツイン
ユニットバスルーム(特注品)
シャワーバー TMWB95ECR
ベッセル式洗面器 L710C
水栓 TLC31
ウォシュレット一体型便器 GG1

18F

名古屋JRゲートタワーホテル

デラックスコーナーツイン



↑バスルーム。脱衣所とバスルームの境はガラス張りで開放感がある。
←角部屋(32㎡)なので、二方向の景色を楽しめる。

↑名古屋の街を見渡せる脱衣所とバスルーム。大きな鏡面と外の風景が、空間を広々と感じさせる。
→バスルームとは別室のトイレ。



スーパーアツイン



↑トイレとバスルーム。あいだの壁はガラス張り。バスタブ横に洗い場があり、オーバーヘッドシャワーも設置。

→ワンランク上の広さがあるツインルーム(28㎡)。フルハイトの窓からは、名古屋の街を見渡すことができる。



新商品開発物語



New Product Story
Interview with
Kanai Maki, Yo Yo,
Inage Yukina

システムドレッサー「エスクア」。この6月、斬新なグローバルデザインをまといながら、暮らし方に合わせて自由に組み合わせられる、新しい洗面化粧台がTOTOから新発売されました。

そのセミオーダーメイドシステムを、よりわかりやすくお伝えしたい。

そう考えて、シヨールームやカタログなどの企画・制作・デザインを担当するコミュニケーション系のスタッフ3名が、開発部門やデザインチームとともに、製品開発に参画してきました。

どういう試みをしたのか、新商品「エスクア」をご紹介します。

聞き手・まとめ／村上浩平 写真／山下恒徳

暮らし方で選ぶ。新・システムドレッサー「エスクア」

ライフスタイルで 選べる「エスクア」

——今回新発売された「エスクア」はどのような商品ですか。

金井麻紀「エスクア」は、高級グレードである「システムJ」という洗面化粧台の13年ぶりのモデルチェンジですが、まったく新しいコンセプトから生まれています。それが、さまざまなご要望に応えられるセミオーダーメイドのシステム。従来は、片隅に「あればいい」という存在だった洗面化粧台が、時代の変化、お客さまの生活やニ

ーズの変化によって、いつのまにか住まいの重要な場所になり、お客さまのご要望も多様になってきたんですね。

——というところ。

金井 たえば家事労働を軽減するため、キッチン横に置いて動線や作業効率をよくくする。あるいはホームパーティをよく開くので「見せられる洗面空間」にしたい。また家族のなかでもプライバシーを尊重するために、寝室横にバスルームと一緒につけるとか。暮らし方によって、洗面化粧台がいろいろな意味をもつようになってきています。

——具体的には、「システムJ」とどう違うのですか。

金井「エスクア」は、お客さまが自分の暮らしに合わせてセミオーダーメイド感覚で各パーツを選べる商品です。従来の「システムJ」は空間の寸法、つまり間口に合わせて部材を組み合わせるものだったのです

が、「エスクア」は、さまざまなライフスタイルに応じた6つの基本プランをご提案しています。お客さまのニーズに一番近いプランを選んでいただき、そのプランから、水栓やボウル、さらには扉やカウンターなどの個々の部材を自分の好みで決めていくというかたちになりました。

——ライフスタイルで選ぶということですね。その6つのプランとはどういうものですか。

金井 開発が始まってから、お客さまの声やトレンドなどをいろいろ調べ、ご好評をいただいていた「システムJ」から、お客さまのニーズが高かった組み合わせを5タイプ。それに加えて、最近の調査でデザイン性の高いものがほしいという声が非常に増えてきています。そこで、ミラノサローネなどに出品されている海外のデザイン性の高い洗面化粧台を参考にし、フロアタイプやトレンドなどを加えました。

デザイン面で 大きく進化

——先ほどの「見せられる洗面空間」ですね。

金井 TOTOの調査(※1)では、洗面所のリフォームに関して「来客に配慮した、人に見せられる空間にしたい」という方が約41%、「シテイホテルやリゾートホテルのような空間にしたい」という方も約22%いらっしゃいました。

姚瑤 海外の展示会などで目にするトレンドの洗面空間、化粧台というのは、水まわ



さまざまな部材や技術を結集して、暮らし方で選ぶ仕組みを考えました。

Kanai Maki



空間とマッチする、家具のような高いデザイン性を目指しました。

Yo Yo

りの設備というよりは、インテリアのひとつ、家具のようなたたずまいになっていきます。空間全体にマッチする形や色、引き出しの中まで美しく仕上げられていて、部材同士もピタッとおさまる精緻な造りになっています。

家具のようなデザインは「エスクア」の一貫したコンセプトですが、とくにそのシンボルとしてつくったのがフローティングデザインプラン。空間に余白をもたせるこ

とで圧迫感をなくしつつ、自分の好きなインテリアや小物を組み合わせる楽しみがでるプランですね。

金井 カウンター10種類、ボウル4種類、水栓9種類、鏡4種類……パーツをいろいろ選べるということをお客さまに楽しんでいただきたかったので、それぞれのデザインや機能にもこだわりました。

姚 たとえば水返しをなくして、バックガードを極限まで薄くすることで、すっきり

させたスリムフォルムカウンター。クリスタルカウンターには「霞」^{かすみ}「彩糸」^{さいいと}という2タイプの柄入りのものも新規に採用しています。新開発した上下LED照明は、鏡の上と下それぞれ横方向に広がるスリムな照明。どの位置に立っても影がでにくいように、鏡の上方向も照らすので間接照明の役割も果たします。

デザイン賞をとったトレンドデザインのものも各種取り揃えています。面材のカラーバリエーションについても、消費者マイナードや建材のトレンドをウォッチしながら綿密につくりあげ、上質感や自然さ、落ち着いた



Inage Yukina

ワクワクしながら、住まいのイメージを描けるカタログを目指しました。

6つの基本プランのひとつ「フローティングデザインプラン」。鏡の上下にはLEDが取り付けられている。空間を均一に照らし、顔に影が出にくい。

Inage Yukina

Yo Yo

Kanai Maki

金井麻紀

OTTO(株)
販売統括本部
商品営業推進第二部
浴室・洗面商品
営業グループ

かない・まき／1973年東京都生まれ。95年に工学院大学建築学科卒業後、二級建築士取得。OTTOハイリビングに入社。マンション・住宅の特需向けキッチン・洗面の商品企画に携わる。2016年より現職。

姚瑶

OTTO(株)
デザイン本部
デザイン企画部
マーケティング
デザイングループ
デザイナー

よう・よう／1988年中国江蘇省生まれ、富山県育ち。2012年に金沢美術工芸大学卒業後、OTTOに入社。デザイン本部に配属。システムバスルームのカラー企画などに携わる。15年より現職。

稲毛幸菜

OTTO(株)
販売統括本部
商品営業推進第二部
商品コミュニケーション
企画グループ

いなげ・ゆきな／1982年千葉県生まれ。2006年に多摩美術大学大学院修了後、OTTOハイリビングに入社。洗面化粧台の販売企画業務に配属。10年より現職。

きを表現しました。

クリーン機能も さらに進化

——クリーン機能も魅力ですよね。

金井 もちろんTOTOの一番の強みであるクリーン技術も搭載しています。今回新たに開発されたのが「お掃除ラクラク排水口（抗菌・防カビ仕様）」。アンケート（※2）によると、洗面所のお掃除で一番わずらわしいところは排水口なんです。排水口部分に抗菌・防カビ効果をもつ樹脂を練りこんで、汚れのもとになる菌を抑えるようにしました。形状にもこだわり、排水口は段差をなくして掃除しやすくし、ヘアキヤッチャーも集めた髪の毛をさつと落とせる形にしています。さらにTOTOの看板技術である「きれい除菌水」も採用。排水口に直接吹きかけることによって、さらにきれいが長持ちするようになっていきます。

製品からカタログまで 開発する

姚 ここにいる3名は価値伝達、つまりお

客さまや建築家、業者のみなさんへのコミュニケーションを担当しています。

稲毛幸菜 ものづくりの事業部と、私たちコミュニケーション部隊が一緒になって、お客さまのご要望にフィットできる商品をご提案できるように取り組んできました。

金井 新技術のお掃除ラクラク排水口に使用している「抗菌・防カビ樹脂」は、洗面化粧台を開発する事業部だけでなく、菌・カビの分析を得意とする総合研究所や、樹脂材料を専門とする生産技術本部といったTOTO内の研究部門と連携してつくりあげた新しい材料です。ほかのパーツでも、事業部、デザインチームが携わり、そして私たちが一丸となって「エスクア」全体の商品づくりを行ってきたわけです。先ほどの6つのプランをつくったり、ユーザー目線の洗面空間をどう形にし、どうやって世に出していくかなどは私たちがリードしてきた部分ですね。

——なるほど、ユーザー目線ですね。

金井 これまででは選ぶのが難しいといわれていた商品なので、6つのプランからスムーズに選んでいただけるよう、今回はカタログなどのツールを強化しました。

稲毛 これが「エスクア」専用のカタログ

です。

——造りが違う感じですね。

稲毛 お施主さまと設計者とのあいだの共通言語となるようなものを表現したい、見る人がワクワクするものにしたと思います。

6つのプランのなかのどれにするかというのが最初の入口で、その具体的な展開例（バリエーション）を見ていただき、最後にパーツを選んでいくという構成になっています。各プランに基づくバリエーションは数多く掲載しました。「ホテルのような洗面化粧台」がほしいといっても、シティホテルとリゾートホテルでも全然違いますし、お客さまによってもイメージは変わってきます。自分のライフスタイルに本当にマッチするのはどれなのか、どのエッセンスをわが家に入れていったらいいのか、洗面空間を形にしていくときに活用してほしいと考えたからです。そのため平面図も一緒にのせるなどして、暮らしのシーンが想像できるように工夫しています。

サイズやパーツの組み合わせで概算の見積もりがわかる一覧表もつけて、使い勝手もよくなりました。

暮らしを一緒に つくるTOTO

——デザインにこだわるとき、建築家は造作で洗面化粧台をつくることが多いと思いますが、TOTOの商品でもデザインを追求するようになってきたんですね。

金井 洗面空間にこだわってお客さまが増えた。洗面化粧台が表舞台に出てきたということだと思えます。

姚 建築家のみなさんには、まだ物足りないかもしれません。さらに選択肢を増やす作業を続けていきたいですね。

稲毛 ものを選ぶというより、建築家の方もお客さまも「暮らしを一緒につくって」いけるといふふうに思っていたら、うれしく思います。

金井 「エスクア」は多様な「暮らし方」の実現を目指した商品ですから、いろいろなシーンに合わせられます。お客さまの「暮らし方」をこれからもキャッチアップしつつ製品に反映させていきたいと考えています。

※1 「住宅設備と生活意識に関する実態調査」
TOTO調べ（2016年）
※2 「暮らしに関するアンケート」
TOTO調べ（2014年）

クリーン 技術を 搭載

きれい除菌水

排水口や歯ブラシに「きれい除菌水」を吹きかけ、汚れや菌を分解・除菌。



お掃除ラクラク 排水口 (抗菌・防カビ仕様)

抗菌・防カビ樹脂の排水口が、ヌメリや黒ずみ・カビ汚れの増殖を抑える。



詳細はカタログをご覧ください。

カタログのご請求

くわしくは「システムドレッサー/エスクア(No. 2772)」をご覧ください。カタログをご希望の方は、本誌に同封の「TOTO通信2017年秋号アンケート用紙」にご記入のうえ、ファクスまたはWEBにてお申し込みください。

ファクス

093-571-0999

お問い合わせ

商品の技術的なご質問は、技術相談室ナビダイヤルまでお問い合わせください。

ナビダイヤル

0570-01-1010

化粧鏡	水栓	ボウル	カウンター
<p>4 タイプ</p>  <p>木製三面鏡 (上下LED・調色機能付き)</p>  <p>木製三面鏡 (LED照明)</p>  <p>木製一面鏡 (上下LED・調色機能付き)</p>  <p>大型一面鏡</p>	<p>9 タイプ</p>  <p>GOシリーズ</p>  <p>GRシリーズ</p>  <p>GAシリーズ</p>  <p>コンテンポラリシリーズ</p>  <p>コンテンポラリシリーズ (ホース付き)</p>  <p>エアインシャワー水栓 (2穴タイプ)</p>  <p>アクアオート・ゲースネックタイプ (自動水栓)</p>  <p>アクアオート・コンテンポラリタイプ (自動水栓)</p>  <p>アクアオート・Aタイプ (自動水栓)</p>	<p>4 タイプ</p>  <p>陶器製丸形洗面器 (ベッセル式)</p>  <p>陶器製角形洗面器 (ベッセル式・アウトセット)</p>  <p>陶器製角形洗面器 (ベッセル式・インセット)</p>  <p>人工大理石製ボウル</p>	<p>10 タイプ</p>  <p>霞(かすみ)</p>  <p>彩糸(いろいと)</p>  <p>クリスタルアイスブルー</p>  <p>クリスタルスノー</p>  <p>グラニットホワイトストーン</p>  <p>グラニットアマーロブラウン</p>  <p>グラニットアマーロブラック</p>  <p>オニクススマートホワイト</p>  <p>オニクススマートベージュ</p>  <p>ホワイト</p>

「エスクア」の
セミオーダー
メイドの仕組み

右の6つのプランを基本としながら、上記のカウンター、ボウル、水栓、鏡を組み合わせられるほか、カウンターの扉のカラー、取っ手やキャビネットのデザイン、壁や天井との隙間の調整部材なども、さまざまなバリエーションのなかから選ぶことができる。



1 フローティング
デザインプラン



2 センターボウル
プラン



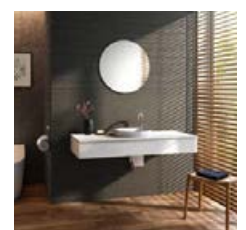
3 片寄せボウル
プラン



4 片寄せオープン
プラン



5 2連ボウル
プラン



6 カウンター
プラン

第4回

建築と未来

特集の最後となる第4回では、
建築とその未来について考えてみたいと思います。
新しい発想やテクノロジーによってつくられた

近年の建築を元に、少し先の建築のあり方を探っていきます。
そして、未来へ近づくTOTOの新しい技術や製品もご紹介します。

取材・文：写真提供（62ページを除く）／新建築社



近代主義の次へ 進み出した建築

西洋から起こった近代主義思想の広がり
は、建築に大きな影響を与えた。どこでも同
じものを、より早く、たくさんつくること
ができるようになった。日本では戦後の高度経
済成長期とも相まって、建築のシステム化、
プレファブ(プレキャスト)化、パッケージ化
が進んだ。多くの建築は現在もその広がり
の中にあるし、恩恵を被っている。いわゆる
便利で快適な生活を人々にもたらしたの
だ。ただ、行き過ぎた資本主義に後を押され
たかたちで、建築は経済性と引き換えに、人
間にとって重要な地域性や多様性を失いつ
つあるように思われる。

一方で、CGシミュレーションやBIMな
ど、コンピュータの進化によって設計・生産・
施工の効率は劇的に向上し、同時に自由度
も大幅に高まっている。構造や設備におい
ては目覚ましい進展が見られ、それまで制約と
されていた多くのものから解放された。
結果、本来あるべき建築のあり方が模索さ
れている。テクノロジーによって自由を得た
先進的な建築家たちが、人の自由な感性に
根ざした、より人間中心のつくり方を目指
し始めている。

人と環境、 いずれにも優しく

未来の建築を考えると、地球環境への負
荷をできる限り小さくしようとするのは
大前提だろう。それは新たな「制約」ではな

く、人が空気を吸うように、当たり前のこと
となるはずだ。

「みんなの森 ぎふメディアコスモス」(設
計：伊東豊雄建築設計事務所)では居住域
空調換気を採用し、外部との中間領域を設
定。エネルギー消費を大幅に削減した。トッ
プライトから吊られる「グローブ」と呼ばれ
る巨大なランプの傘のようなオブジェク
トが、空気の流れを効果的に促し、光を拡散
し、包まれたような人の居場所をつくる。空
調や照明が決して過度とならずに、ちょうど
いい空気と光がある状態をつくっている。膨
大かつ緻密なシミュレーションの成果だ。

「直島ホール」(設計：三分一博志建築設計事
務所)では2年半をかけた周辺地域のリサー
チに基づき、立地する島に吹く風の流れをそ
のまま建築に取り入れた。入母屋の穴に風が
通る際の気圧差を利用して、穏やかな気流が
起こる。熱容量の大きい盛り土に埋まったホー
ルは気候にかかわらず、快適な温度を保つ。
「嬉野市立塩田中学校」(設計：末光弘和
+末光陽子/SUEP+佐々木信明/イ
ンターメディア)では、風景と領域をつくる
Y字型の構造ユニットが、雨水や太陽熱を集
める循環システムの一部にもなっている。

熱や空気といった流体を丁寧に観察し、自
然に発生するものは極力利用す
る。これらはい
わゆるパッシブ
デザインという
考え方に属する
ものだ。そして
環境に優しくて
も、中にいる人
間が我慢を強い
られるようでは



みんなの森 ぎふメディアコスモス

2017/1917

TOTO WATER TECHNOLOGY

Wherever you feel the touch of water, you will find us.



直島ホール

未来足り得ない。意匠も含めて人が心地良く感じられる場を提供し、立地や用途など状況に応じて、よりきめの細かい環境設計がなされ

ていくだろう。

水まわり製品の開発も流体とは切っても切り離せない関係だ。TOTTOでは、少ない水でより確かな洗浄を可能にした「トルネード洗浄」を代表として、流体制御をさらに進化させている。

「エアインワンダーウエーブ洗浄」は、「ウォシュレット®」の洗浄水で連射される秒間100個という水玉に空気を含ませ、その大きさを約30%拡大し、当たり心地のたつぷり感を向上させた。シャワーの新吐水方式「コンフォートウエーブ」では、ノズル内部の形状を工夫し、カルマン渦列(交互に生まれる反対向きの渦)を生じさせて水がスイングしながら出てくる「ウエーブ吐水」を取り入れ、適度な刺激感を与える。いずれも節水をしながら、水の量感を高めることで心地良さを追求したものだ。感性評価はアナログに人が実際にモニターするしかない。TOTTOでは綿密なモニターングの結果を解析し、刺激感や量感と快適性との相関を得た。未来の技術も人自身が持つセンサーが重要なのだ。

人の感性に寄り添った構成や形態

柱はほとんどの建築にとって不可欠なものと考えられている。しかし、人にとって空間はできる限り自由であったほうがいい。もし仕切ったり、囲んだりする必要があれば、そのためのデザインをすればいい。「不可欠なもの」とされる構造や設備を始め、建築そのものが機能に対し合目的になりすぎて、楽しく活動したり、気持ち良くなるという人の感性を必ずしも満たさず、感じていないのではないだろうか。

「神奈川工科大学 K A I T 工房」(設計・石上純也建築設計事務所)は巨大な平面を無数の細い鉄骨柱によって緩やかに領域を分け、森のような風景をつくっている。柱はあるが人はそれを柱と感じない。ランダムに建てられたように見える柱の位置は、専用のプログラムを使ってスタディを重ねた結果だ。



「グレイス・ファームズ」(設計/SANA)は米・コネチカット郊外にある財団運営の地域交流施設だ。広大な丘陵地のランドスケープに、ホールやライブラリ、食堂やバスケットコートなどの各アクティビティをつなぐ建築が、川が流れるようにプランされている。「川の流れ」のままに移動すると、雄大な自然の景色やアートなどがシーケンスを埋めていく。感性に訴える仕組みを設け、移動という体験をより魅力的なものへと変換した。



上)ホキ美術館 下)グレイス・ファームズ

機能や効率が空間の構成を決めていくのではない。人の感性に寄り添った、人がより自然にふるまえる空間。生物のスケールからは重厚で巨大な存在である建築が、人間の生理や行動により忠実になっていく。

トイレもかつては機能が形態を決定していた。タンクも便器も温水洗浄便座もそれぞれが独立した存在で、使いやすさや機能は十全であっても、感性という領域ではまだまだ及ばなかった。

TOTTOは、「ネオレストNX」で真の一体形として、便器と「ウォシュレット®」の区別なく「ノイズレス」な曲線フォルムを生み出した。焼成や乾燥における変形を分析し、陶器と樹脂部分で調律のとれた成形を実現。ディテールに研鑽を重ね、メカニカルなプレゼンスを廃し、感性に満ちた美しい佇まいは、まさに未来のトイレだ。

「クレイドル浴槽」の、その名の通りゆりかごをイメージした浴槽デザインは、安ら

ぎを感じさせるだけでなく、人間工学を追求。緩やかなカーブはまたぎやすく、入った状態では手をかけるのにちょうどいい。内部にも背中や首などを支える柔らかな曲面を設け、体をしっかりと支え、安定した入浴姿勢を促す。

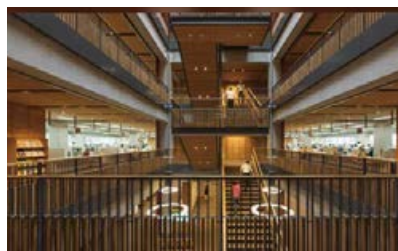
また、くびれや曲面によって美しさと使いやすさを兼ね備えた台付き混合水栓「GOシリーズ」は、2017年のレッドドット・デザイン賞における最優秀賞「best of the best」をTOTTO製品として初受賞。ステンレスの溶接によって、エッジ3mmのスパウトを実現した洗面水栓「Zレシリーズ」など、TOTTOの人間を見つめたデザインは、深化を続けている。

人が温もりや親しみを感ずる素材

未来の建築素材については、予測しきれないほど多様に開発され、今は想像のつかないものも生み出されるだろう。これまでの流れに則り、実際に手に触れ、目にする可能性のあるものを中心に考えてみたい。

コンテクトを重んじ、サイトスペシフィック的であろうとする建築の多くは、その素材にもローカリティを反映している。建築のロジックに基づくとともに、人間の感性にも大きく影響するからだ。

「安曇野市庁舎」(設計・内藤・小川原・尾日向設計共同企業体)では、高強度Pcを多用した構造ながら、内外装に地場のヒノキやカラマツのパネルをふんだんに使用している。業務施設の無機質さから離れた、ハイタッチな印象を与える。



安曇野市庁舎

TOTOも
マテリアル探
究の道を深く
進んできて
おり、ものづ
くりの重要
な一翼を担
う。例えば陶
器では、「セ
フィオンテク
ト」のように

「道の駅ましこ」(設計：原田真宏+原田麻魚/マウントフジアーキテクトスタジオ)では、構成と形態の核である、大スパンを生み出す屋根架構が地場産のスギ集成材(加工自体も地元工場)によるものだ。架構を受ける台座部は地元土を用いた左官仕上げになっている。

「中国美術学院民芸博物館」(設計：隈研吾建築都市設計事務所)は、中国・杭州にある国立美術大学の博物館で、なだらかな起伏のある斜面に建つ。中国の粗野で素朴な古瓦を屋根だけでなく、ワイヤーで自立させ、スクリーンとして大量に使う。内装では木材が中心だ。

日本で好まれる内装用の塩ビシート材は木目を模した柄の人氣が最も高い。日本人が木に慣れ親しみ、木目のある光景を心地良いと感じているからだろう。木材・木質系の素材は、耐火処理や不燃化を施したものを始め、構造部材にも使える集成材など選択肢が広がり、さまざまな用途で使われるようになった。

木材に限らず、その土地や地域に当たり前にある、存在自体が自然なテクスチャーやマチエールを持つ素材が、今後もより採用されていくだろう。

技術の進歩は建築をより自由にしてきた。規模や用途などによる、一律的なモデルに倣うつくり方から離れ、状況に応じた多様性を帯びるようになった。空調設備や照明器具の全くないオフィスでも、丸い平面の美術館でも、木造の超高層ホテルでも、その未来はより自由になっていくだろう。いずれ

日本が 未来をつくる

100万分の1mmというナノレベルで表面のガラス層を滑らかにし、洗浄性や耐久性を高めた技術もある。

ローカリティという点では、「ハイドロソリック」はイタリアのメーカーと色柄を共同開発した大判の磁器質陶板だが、大理石を模したのではなく、日本の自然や伝統工芸などからデザインのエッセンスを導き出している。セラミックでありながら、和紙や左官を思わせる繊細さや、鉄器や鑄物の表情の力強さなど、懐かしさや温かみを感じさせつつ、全く新しい表情を持ち備えている。

キッチンや洗面台の天板となる「クリスタルカウンター」では、淡い透明感を持つハイブリッドエポキシ樹脂によって、舞い散る花びらや石の結晶を表現したデザインを実現。無機質な雰囲気になりがちな水まわり空間で、感性を刺激する。



道の駅ましこ

にせよ、根拠となるのはごく単純に、人が心地良くその場に居られるかだ。

そして、人が自然の一部である以上、自然の環境や素材に魅かれるのは必然だ。20世紀は人と自然を分かつことに建築が使われてきた。しかし、やはり技術の進歩によって、建築という境界を曖昧にしながら、人と自然はより近づいてきている。

建築が自由になり、限りなく人と自然が近くになった時、建築はどのように、何のために存在するのだろうか。そこには人と人が出会うという原初的な理由がある。社会全体の変化によって、今後より多様な人種・性別・年齢の人たちが、ともに住み、学び、働くことが求められる。そのスケールにかかわらず、世界中のコミュニティーに共通する課題だ。

古来より自然と近い暮らし方をしてきた日本は、親自然的な発想で建築をつくってきた。また、高度な技術やものづくりの叡智に基づいた、課題を克服する力も備えている。

人の感性に心地良いものでありながら、多様性を受け入れることのできる自由な建築——。建築を問題解決のためのデバイスとして考えたとき、優れた「建築力」を持つ日本であれば、その未来を先導していくことも、決して夢ではない。

21世紀以降のTOTOはグローバル戦略を積極的に進めている。多様化する世界に対応するべく、例えば、水栓金具は全世界で6000を超えるアイテム数(うち国内は約3680)がある。さまざまな人の生活や嗜好に寄り添うデザインを生み出しているのだ。その中心となる、TOTOのデザイン本部は、2005年のミノノサローネで、特に海外からの評価を定着させるために、「デザインフィロソフィー」静かなる存在感とそれを実現するための五つのデザイン要件

「OASIS」を前面に打ち出した。同本部が1957年に組織化されて以降、初の明快なコミットメントだ。世界に対して、ものづくりの姿勢と意識を明確にした。

そのフィロソフィーにある「さりげなく、使う人の気持ちにそっと寄り添う」。これは未来の建築とも符合していくはずだ。環境と多様性への真摯な取り組みを続け、TOTOは、次の100年も人と建築とともにある。

TOTO デザイン フィロソフィー

毎日の暮らしの中で、主張しすぎず、さりげなく、
使う人の気持ちにそっと寄り添う。
高い品質と性能を備え、空間表現を乱さない「静かなる存在感」。
それが、TOTOが目指す水まわり商品です。

5つのデザイン要件



TOTO創立100周年サイトを公開しています。

TOTO100周年
サイト公開中



<http://www.toto.co.jp/100th/>

TOTOの最新情報

TOTO News 5

社会的責任投資指数「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に選定されました

TOTOは、社会的責任投資(SRI*1)の世界的指数である「FTSE4(フツツイ・フォー) Good Index Series」の構成銘柄に2年連続で選定されました。FTSE Russell(*2)が作成する「FTSE4Good Index Series」は、ESG(環境・社会・ガバナンス)に関する評価基準を満たした企業への投資を促すよう構成された株式指数(*3)シリーズです。

これらの指数に選定されたことは、TOTOグループの環境・社会・ガバナンスに配慮した経営、情報開示が評価されたものです。

企業評価の指標として財務情報に加え、ESG視点の非財務情報に対する関心が高まっています。TOTOは創立以来「水」にかかわる事業を展開してきた企業として、引きつづき、企業理念に基づく経営、「TOTO Vプラン2017」「TOTOグローバル環境ビジョン」をあわせて推進していきます。

*1 社会的責任投資(SRI):投資をする際に、従来の財務分析による投資基準に加え、環境・社会・コーポレートガバナンスといった企業の社会的責任も重視して投資をする方法のこと。*2 FTSE Russell:株式や債券などのインデックスの開発と管理をはじめとする投資判断ツールを世界規模で展開しているインデックス会社。*3 株式指数:「インデックス」とも呼ばれ、市場の動向を示す指標。

お詫びと訂正

『TOTO通信』(2017年春号)「最新水まわり物語」におきまして、「大手町フィナンシャルシティ グランキューブ」の図面に誤りがありました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

【訂正箇所】

- 51ページ 10Fトイレ平面図
女子トイレ:東列ブースのウォシュレット操作部向き、フィッティングボード位置
- 52ページ 1Fトイレ平面図
多機能トイレ:ペーパーシート大きさ、ペーパーチェア位置、ハンドドライヤー位置

正しい図面は『TOTO通信』ホームページに掲載させていただきます。
www.toto.co.jp/tsushin/
2017_spring/mizumawari.htm

TOTO News 1

TOTOミュージアムが2周年を迎えました

2015年8月にTOTO創立100周年記念事業として北九州の小倉に開設した「TOTOミュージアム」。オープン2周年を機に、展示品を一部リニューアルいたしました。これまでの展示に加え、パブリック商品やグローバル市場向け展示を充実させ、「TOTOのこれから」をより感じていただける場に進化してい



グローバルギャラリー

TOTO News 2

ウォシュレット補修部品用包装箱が第41回木下賞「新規創出部門」を受賞しました

木下賞は国内の包装産業界では最も権威ある賞で、ウォシュレット補修部品用包装箱(内容物にフィットする緩衝機能付き包装箱)が、2016年度に包装の新規分野創出に顕著な業績を上げたものとして高く評価されました。TOTOでは本賞は今回が初の受賞となります。

TOTO News 4

「自動洗浄小便器のデザイン(意匠)」が発明賞を受賞しました

TOTOの「自動洗浄小便器のデザイン(意匠)」が、平成29年度全国発明表彰において、発明賞を受賞しました。全国発明表彰は、科学技術の向上と産業の発展に寄与することを目的に、皇室から毎年御下賜金を拝受し、多大の功績を上げた発明、考案、意匠を表彰する制度です。受賞した自動洗浄小便器は、高い清潔性・清掃性を備えながら、シンプルですっきりとしたデザインに仕上げたことが、今回の受賞につながりました。



←自動洗浄小便器(UFS900JS)

今回受賞したパッケージ



受賞したパッケージは、段ボール製の緩衝部がフレキシブルに変化するため、内容物を入れるだけでフィットさせることができます。包装作業を習得する手間も軽減され、誰でも簡単に収納することができます。

TOTO News 3

TOTOミュージアム所蔵の「光電センサー内蔵自動水栓」が「建築設備技術遺産」に認定されました

TOTOミュージアム所蔵の「光電センサー内蔵自動水栓」が、(一社)建築設備技術者協会より平成29年度「建築設備技術遺産」に認定されました。今回の受賞は、パブリックトイレでの自動水栓普及のきっかけとなっただけでなく、光電センサーや駆動部の技術進歩の原点となり、家庭用水栓への応用などにも影響をおよぼした点が、建築設備として価値ある製品と認められました。



光電センサー内蔵自動水栓(TEL2B)

TOTOからのお知らせページです。
イベント、新商品、最新情報など知っておいていただくと
お役に立つ情報を心がけています。
合わせてご注目ください。

www.toto.co.jp/publishing

TOTO出版のお知らせ

Book 2

『オンデザインの実験 —人が集まる 場の観察を続けて』

「オンデザインパートナーズ」の代表を務める西田司は、2016年ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展に共同出展するなど、40代で活躍する注目の若手建築家。住宅をはじめ、公共建築やまちづくりなど、仕事の幅を広げながら多くの実作を手がけている。社会状況やクライアントのニーズが変動しつづける現代において、試行錯誤の「実験」から見出される「建築する意義」を、若手建築家ならではの視点で書き下ろした1冊。

- 著者／西田 司+オンデザインパートナーズ
- 定価／1,500円+税(予価)
- 体裁／四六判、ソフトカバー、188ページ(予定)
- 発行／2018年2月(予定)



Present!

同封の「TOTO通信アンケート」にお答えいただいた方のなかから、抽選で10名の方にプレゼントいたします。

Book 1

『リナ・ボ・バルディ —ブラジルに もっとも愛された 建築家』

イタリア、ローマに生まれ、ジオ・ポンティに師事した後、第二次世界大戦の傷跡から逃れるようにブラジルへ渡った女性建築家リナ・ボ・バルディ。自邸「ガラスの家」をはじめ、美術館や文化施設など市民のためのすぐれた建築をブラジルに残した。世界的に再評価が高まっている今、財団に残る貴重な図面やスケッチ、手記などの資料と撮りおろしも含めた作品写真を多数収録した決定版といえる作品集。氏にくわしい妹島和世氏、塚本由晴氏による対談も収録。

- 監修／和多利恵津子(ワタリウム美術館)
- 協力／リナ・ボ・バルディ財団
- 定価／4,300円+税
- 体裁／B5判変型、ハードカバー、288ページ
- 発行日／2017年11月20日(予定)

セラのお知らせ

水の生み出される瞬間を とらえた美しいデザイン 「ZOE」シリーズに 洗面水栓を品揃えしました

セラトレーディングでは、スイスのKWC社のZOE(ゾエ)シリーズに、洗面水栓を新たに品揃えしました。ZOEシリーズは岩のあいだから湧き出る水にインスピレーションを受けた、美しい弧を描くデザインが特徴です。わずかに後方へカーブしたフォルムは、曲線美を際立たせながらも、水栓の圧迫感を軽減。また、なめらかな動きのハンドルや左右に回転する吐水口など、操作性にも配慮しています。同シリーズのキッチン水栓とあわせて採用していただくと、水まわり空間に連続性とグレード感が生まれます。水まわりのトータルコーディネートにおすすめしたいラインアップです。



ZOEシリーズ 洗面水栓 KW2208131

希望小売価格 95,000円(税別) 当商品掲載の「総合カタログ2017」は、セラトレーディングホームページ、またはファクスにてご請求ください。
www.cera.co.jp
Fax: 03-3402-7185

Information >>>

『TOTO通信』定期購読をご希望の建築家をご紹介ください。

お申し込みはTOTO通信データ管理室まで

Tel / 093 (513) 6234

e-mail / toto_tsushin@jlink-net.com

*法人あての送付となります。

Bookshop TOTO

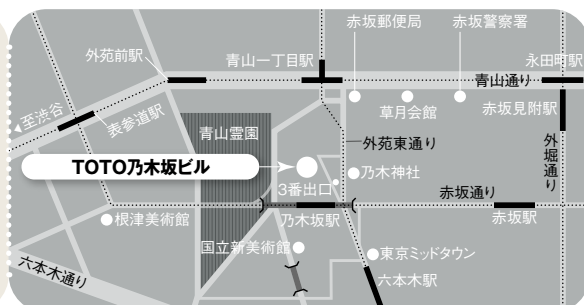
- 所在地／東京都港区南青山1-24-3
TOTO乃木坂ビル2階
- 電話／03(3402)1525
- 営業時間／11:00~18:00
- 定休日／日曜日・月曜日・祝日・「TOTOキャリアー・間」休館中の土曜日・夏期休暇・年末年始

TOTO出版

- 所在地／東京都港区南青山1-24-3
TOTO乃木坂ビル2階
- 電話／03(3402)7138
- ファクス／03(3402)7187
- 全国の書店でお求めください。直営店Bookshop TOTOでもお求めになれます。書店遠隔の方はお問い合わせください。

セラトレーディング

- 所在地／東京都港区南青山1-24-3
TOTO乃木坂ビル1階・地下1階
- 電話／03(3402)7134
- 営業時間／10:00~17:00
- *日曜日は予約制
- 定休日／月曜日・祝日・夏期休暇・年末年始



アクセス／●東京外口千代田線「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分 ●都営地下鉄大江戸線「六本木」駅下車徒歩6分 ●東京外口日比谷線「六本木」駅下車徒歩7分 ●東京外口銀座線・半蔵門線・都営地下鉄大江戸線「青山一丁目」駅下車徒歩7分

次号『TOTO通信』は2018年1月上旬発行の予定です。

未来は、ここから始まる。

NEOREST NX

TOTO技術相談室 0570-01-1010 受付:平日9:00~18:00 土曜日9:00~17:00(日・祝・夏期休暇・年末年始を除く) TOTOホームページ www.toto.co.jp/

この情報誌には、植林木・森林認証材などを原材料とする環境に配慮した用紙を、さらに印刷インクとして、環境に配慮した植物由来のインクを使用しています。

『TOTO通信』のお届け先などの変更はお客様No.(封筒の宛て名ラベル右上に記載)も併せて下記までご連絡ください。
 TOTOカタログセンター内 TOTO通信データ管理室 TEL.093(513)6234 FAX.093(571)0999
 *当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様からお預かりした個人情報は、
 関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOウェブサイト(www.toto.co.jp/)をご覧ください。